

## 設置計画の概要

事 項	記 入 欄												
設置手続きの種類	事前伺い												
計画の区分	研究科の設置												
フリガナ設置者	コクリツイガクホクシン トヤマダイガク 国立大学法人 富山大学												
フリガナ大学の名称	トヤマダイガクダイガクイン 富山大学大学院 (Graduate School, UNIVERSITY OF TOYAMA)												
新設学部等において養成する人材像	<p>【人間発達科学研究科 発達教育専攻】</p> <p>①養成人材：人間発達を支援・促進するための心理、教育、保育、福祉分野の専門的能力をもち、地域社会の持続的発展を主導しうる教育人材</p> <p>②教育研究上の目的：複雑に変容する現代社会に起因する人間発達上の諸問題を理解し、探求し、解決するために必要な、心理学、教育学、保育学、福祉学等の専門的能力を修得させる。</p> <p>③修了後の進路：地域教育界の中核となる指導的教員、公務員の心理職・福祉職、教育関連企業における教材開発担当者、一般企業の人材育成の専門職等</p> <p>【人間発達科学研究科 発達環境専攻】</p> <p>①養成人材：人間に働きかける上で有効な教育プログラムやカリキュラムの開発等を通じて、より高次の人間発達を実現する専門的能力をもち、地域社会の持続的発展を主導しうる教育人材</p> <p>②教育研究上の目的：健康教育プログラムの開発、環境教育及び被災教育カリキュラムの開発、表現教育に関わるホールや文化施設の事業企画・立案、語学教育に関わる教材コンテンツ開発の能力を修得させる。</p> <p>③修了後の進路：地方公共団体や企業等において生涯学習の視点に立った、健康教育、環境教育、被災教育、表現教育、語学教育等に携わる専門職等</p>												
既設学部等において養成する人材像	<p>【教育学研究科 学校教育専攻】</p> <p>①養成人材：教育学及び教育心理学を基礎とする諸分野の研究能力と実践的技能をもち、国際化の中で複雑に変容する現代社会の教育的諸問題に対応しうる教育人材</p> <p>②教育研究上の目的：最新の教育学、教育心理学及び自分の専門分野についての理論的実践的な能力を修得させる。</p> <p>③修了後の進路：地域の教育界の中核となる指導的教員等</p> <p>【教育学研究科 教科教育専攻】</p> <p>①養成人材：教育学及び教育心理学、さらに自分の専門教科の学問上ならびに教育実践上の専門的知識をもち、国際化の中で複雑に変容する現代社会の教育的諸問題に対応しうる教育人材</p> <p>②教育研究上の目的：教育学、教育心理学及び自分の専門教科についての理論的実践的な能力を修得させる。</p> <p>③修了後の進路：地域の教育界の中核となる指導的教員等</p>												
新設学部等において取得可能な資格	<p>【人間発達科学研究科 発達教育専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭 専修免許状</li> <li>・小学校教諭 専修免許状</li> <li>・特別支援学校教諭 専修免許状</li> <li>① 国家資格、② 資格取得可能</li> <li>③ 修了要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が修了の必須条件ではない。</li> <li>・臨床発達心理士</li> <li>① 学会連合資格、② 受験資格取得可能</li> <li>③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、特別支援教育又は心理関連科目の履修が必要</li> </ul> <p>【人間発達科学研究科 発達環境専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校教諭 専修免許状 (社会、数学、理科、保健体育、家庭、英語)</li> <li>・高等学校教諭 専修免許状 (地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、家庭、英語、情報)</li> <li>① 国家資格、② 資格取得可能</li> <li>③ 修了要件単位に含まれる科目のほか、修了要件外としての「自由科目」からの履修が必要</li> </ul>												
既設学部等において取得可能な資格	<p>【教育学研究科 学校教育専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭 専修免許状</li> <li>・小学校教諭 専修免許状</li> <li>・中学校教諭 専修免許状 (国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語)</li> <li>・高等学校教諭 専修免許状 (国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、書道、保健体育、家庭、英語)</li> <li>・特別支援学校教諭 専修免許状</li> <li>① 国家資格、② 資格取得可能</li> <li>③ 修了要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が修了の必須条件ではない。</li> </ul> <p>【教育学研究科 教科教育専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭 専修免許状</li> <li>・小学校教諭 専修免許状</li> <li>・中学校教諭 専修免許状 (国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語)</li> <li>・高等学校教諭 専修免許状 (国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、英語)</li> <li>① 国家資格、② 資格取得可能</li> <li>③ 修了要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が修了の必須条件ではない。</li> </ul>												
新設学部等の概要	新設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員			
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元		助教以上	うち教授
	人間発達科学研究科		発達教育専攻	2	13	-	26	修士(教育学)	教育学・保育学関係	平成23年4月	教育学研究科学校教育専攻	17	6
			発達環境専攻	2	13	-	26	修士(教育学)	教育学・保育学関係	平成23年4月	教育学研究科教科教育専攻 新規採用	11 1	5 0
										-	-	-	
										計	29	11	
										教育学研究科学校教育専攻	0	0	
										教育学研究科教科教育専攻 新規採用	40 3	25 1	
										-	-	-	
										計	43	26	
既設学部等の概要(現在の状況)	既設学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員			
							学位又は称号	学位又は学科の分野		異動先		助教以上	うち教授
	教育学研究科(廃止)		学校教育専攻	2	6	-	12	修士(教育学)	教育学・保育学関係	平成6年4月	人間発達科学研究科発達教育専攻	17	6
											人間発達科学研究科発達環境専攻 その他	0 0	0 0
										-	-	-	
										計	17	6	
										人間発達科学研究科発達教育専攻	11	5	
										人間発達科学研究科発達環境専攻	40	25	
										人文科学研究科人文科学専攻	1	1	
										芸術文化科学研究科芸術文化学専攻	4	4	
										退職	2	2	
										その他	12	6	
										計	70	43	
【備考欄】													
14条特例の実施													

教育課程等の概要(事前伺い)

(人間発達科学研究科 発達教育専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	《教育心理領域》																
	教育心理学特論	1前		2		○			1								
	教育心理学特論演習	1後		2			○		1								
	社会認知神経科学特論	1前		2		○				1							
	実験社会心理学特論演習	1後		2			○			1							
	教育データ解析法	1後		2			○		1								
	発達心理学特論演習	1後		2			○			1							
	発達臨床心理学特論	1前		2		○					1						
	発達臨床心理学特論演習	1後		2			○				1						
	カウンセリング特論演習	1後		2			○				1						
	学習心理学特論	1前		2		○			1								
	《学校教育領域》																
	【教育学】																
	教育哲学特論	1前		2		○			1								
	教育哲学特論演習	1後		2			○		1								
	教育史特論	1後		2		○			1								
	教育史特論演習	1前		2			○		1								
	教育行政学特論	1前		2		○				1							
	教育行政学特論演習	1後		2			○				1						
	教育社会学特論	1前		2		○					1						
	教育社会学特論演習	1後		2			○				1						
	教育方法学特論Ⅰ	1前		2		○					1						
	教育方法学特論演習Ⅰ	1後		2			○				1						
	教育方法学特論Ⅱ	1前		2		○					1						
	教育方法学特論演習Ⅱ	1後		2			○				1						
	教育工学特論	1前		2		○											兼1
	創造性開発特論	1前		2		○											兼1
	教育の情報化特論	1前		2		○											兼1
	メディア教育特論	1前		2		○											兼1
	【教科教育学】																
	国語科教育研究	1前		2		○			1								
	国語科教育特論	1前		2		○			1								
	国語科教育特論演習	1後		2			○		1								
	社会科教育研究	1前		2		○				1							
	社会科教育特論	1前		2		○			1								
	社会科教育特論演習	1後		2			○		1								
	算数科教育研究	1前		2		○					1						
	算数科教育特論	1前		2		○					1						
	算数科教育特論演習	1後		2			○				1						
	理科教育研究	1前		2		○			1								
	理科教育特論	1後		2		○			1								
	理科教育特論演習	1後		2			○		1								
	生活科教育研究	1前		2		○			1								
	生活科教育特論	1後		2		○			1								
	生活科教育特論演習	1前		2			○		1								
	音楽科教育研究	1前		2		○			1								
	音楽科教育特論	1前		2		○			1								
	音楽科教育特論演習	1後		2			○		1								
	図画工作科教育研究	1前		2		○				1							
	図画工作科教育特論	1前		2		○					1						
	図画工作科教育特論演習	1後		2			○				1						
	家庭科教育研究	1前		2		○					1						
	家庭科教育特論	1前		2		○					1						
	家庭科教育特論演習	1後		2			○				1						
	体育科教育研究	1前		2		○			1								
体育科教育特論	1前		2		○			1									
体育科教育特論演習	1後		2			○		1									

《発達福祉領域》																
	発達支援研究法特論	1前	2		○			2	4	2						
	特別支援研究法演習	1前	2			○		1	2							オムニバス
	発達障害療育支援論	1後	2		○	○		1								
	障害児認知神経心理学特論	1前	2		○			1								
	障害児病理学特論	1後	2		○			1								
	特別支援教育論演習	1後	2			○				1						
	アクセシビリティ論	1後	2		○					1						
	障害児感覚運動（ムーブメント）指導法特論	1前	2		○					1						
	障害児指導法特論演習	1前	2			○				1						
	重度重複障害学特論	1後	2		○									兼1	集中	
	障害児心理研究法特論	1前	2		○									兼1	集中	
	発達障害支援学特論	1後	2		○									兼1	集中	
	障害児医療学特論	1前	2		○									兼1	集中	
	ソーシャルワーク特論	1後	2		○					2	1				オムニバス	
	生活福祉特論	1前	2		○					2	1				オムニバス	
	医療福祉特論	2後	2		○					1						
	精神保健福祉特論	2前	2		○					1						
	幼児教育学特論	1前	2		○						1					
	幼児教育学特論演習	1後	2			○					1					
	臨床発達心理学特論	1前	2		○			1								
	臨床発達心理学特論演習	1後	2			○		1								
	幼児教育相談特論	1前	2		○			1								
	幼児教育相談特論演習	1後	2			○		1								
	保育内容の研究特論	1前	2		○						1					
	保育内容の研究特論演習	1後	2			○					1					
	小計（78科目）	—	0	156	0	—		11	14	4	0	0	0	兼8	—	
専攻 間連携 科目	教育心理学研究法特論	1前	2		○			1								
	発達心理学特論	1前	2		○				1							
	学校教育学特論	1前	2		○			2								オムニバス
	教育研究計画法	1前	2		○			1								
	カウンセリング特論	1前	2		○						1					
	教育実践学特論	1前	2		○					1						
	特別支援教育論	1前	2		○					1						
	障害児コミュニケーション行動支援特論	1後	2		○					1						
	スポーツ医学特論	1前	2		○										兼1	
	地球市民社会特論	1前	2		○										兼1	
	科学コミュニケーション特論	1後	2		○										兼1	
	健康システム特論	1前	2		○										兼1	
メディアコミュニケーション特論	1前	2		○										兼2	オムニバス	
異文化コミュニケーション特論	1前	2		○										兼1		
生涯学習特論	1後	2		○										兼1		
小計（15科目）	—	0	30	0	—		4	4	1	0	0	0	0	兼8	—	
特別 研究	課題研究Ⅰ	2前	2			○		11	8	1						
	課題研究Ⅱ	2後	2			○		11	8	1						
	小計（2科目）	—	4	0	0	—		11	8	1	0	0	0	0	—	
合計（95科目）		—	4	186	0	—		11	14	4	0	0	0	兼16	—	
学位又は称号	修士（教育学）		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係										

## I 人間発達科学研究科設置の趣旨・必要性

## 1. 人間発達科学研究科の課題

平成6年に設置された大学院修士課程教育学研究科は、教育学部からの進学者に加えて、大学院設置基準第14条特例を利用した地元現職教員の再教育の場として地域に貢献してきた。その後、平成17年10月、教員養成のための目的学部であった教育学部を改組し、地域（地方）社会に幅広く貢献する指導的人材の育成を目的とする人間発達科学部（「発達教育」、「人間環境システム」の2学科構成）を設置した。現代日本においては首都圏・大都市圏への人口集中や地方産業の縮小が進行しつつあるが、人間発達科学部は、地域社会の再生と振興をはかる上で最も重要な資源となる人間について、生涯にわたる発達の支援・促進と発達の環境条件の改善・充実を担う、「広義の教育」人材を養成する拠点としての責務を担う。

人間発達科学部における「広義の教育」の視点を深めようとする学部からの進学者、現職教員、社会人のために、学部段階における研究課題をさらに追究し、地域社会の持続的発展に資する教育・研究拠点が必要となる。教育学部を基礎とした既設の教育学研究科は学校教育に関する教育・研究と教員を中心とした人材養成を主眼とするため、同研究科を、人間発達科学部と制度的に対応し、「広義の教育」に関する高次の教育・研究と、学校を含む幅広い分野で指導的役割を果たしうる教育人材の養成をめざす新たな研究科に移行させる必要がある。

また、既設の教育学研究科は、地域に根ざす国立大学として教員養成とともに地元現職教員の再教育機能を担い、とくに平成7年度以降、富山県教育委員会の協力を得て現職学校教員を受け入れ、富山県の教員リーダーとなるべき人材へと育て上げる重責を担ってきた。基礎としてきた教育学部人間発達科学部への改組にともない、この教育学研究科を「広義の教育」を追究する一般研究科に改組するに際しても、富山県教育委員会と連携しつつ教員養成と現職教員再教育の機能を引き続き維持する必要がある。

## 2. 「広義の教育」のための研究科体制の構築

上記の課題に対応するために、既設の教育学研究科を、人間発達科学部を基礎とし適正な受入れ規模の人間発達科学研究科に改組する【別紙1・2】。そして、人間発達科学部からの進学者、現職教員、社会人に対し、より高度の教育・研究機会を提供し、同時に富山県唯一の教員養成機能をもつ国立大学として地域社会の期待に応えるべく教員養成・現職教員再教育の機会を提供する。

これらを通じ、新しい研究科においては、「広義の教育」に携わる教育人材を養成する。ここでいう「広義の教育」とは、生涯学習や学校教育や企業内教育の場における「人間発達の支援・促進」と「人間発達の環境条件の改善・充実」との2つから成る。「人間発達の支援・促進」とは、直接人間に働きかけてより高次の人間発達を実現することと定義する。具体的にはカウンセリング等の心理的指導、学校や企業等における教師としての教育・指導、福祉現場や保育現場の巡回指導等を指す。一方、「人間発達の環境条件の改善・充実」とは、人間に働きかける上で有効な教育プログラムやカリキュラムの開発等を通じて、より高次の人間発達を実現することと定義する。具体的には健康教育プログラムの開発、環境教育及び減災教育カリキュラムの開発、表現教育に関わるホールや文化施設等の事業企画・立案、語学教育に関わる教材コンテンツの開発等を指す。

人間発達科学研究科は、「人間発達の支援・促進」と「人間発達の環境条件の改善・充実」を追究するために、「発達教育専攻」と「発達環境専攻」という2専攻を置いて高度の教育・研究を行い、これを通じて学生を地域社会の持続的発展に資する主導的な「広義の教育」人材として養成する。

入学定員については、その研究領域と既設教育学研究科の過去5年間の入学生の専門分野との対応関係を慎重に検討した結果、発達教育専攻13名、発達環境専攻13名、研究科合計26名と設定する。

## 3. 入学定員設定の根拠

人間発達科学研究科における入学定員を、発達教育専攻13名、発達環境専攻13名と設定する根拠は次のとおりである。

## （教育学研究科への進学実績）

表1の既設教育学研究科における過去5年の志願・合格・入学状況をみると、入学者数平均は27.8名であった。その中心は12.2名に及ぶ「教育学部生」であり、また富山県教育委員会の推薦を受けた中から選ばれた6名の現職教員であった。同研究科にはこのように、専門研究のさらなる深化を望む学部生の内部進学ニーズとともに、県からの現職教員再教育ニーズが存在してきた（なお、県教育委員会からの現職教員推薦は平成7年度以降）。

## （人間発達科学部生へのアンケート）

そして、同様の進学ニーズは、人間発達科学研究科においても継続される見込みである。平成22年2月の人間発達科学部3年生（23年3月卒業予定者170名、回答数62）に対する進学アンケートによると、人間発達科学研究科への進学希望者は、「必ず行きたい」2名、「進学を考えたい」10名の、あわせて12名（専攻内訳は、発達教育5、発達環境7）であった。平成21年8月の人間発達科学部4年生（22年3月卒業予定者）に対する同様の調査でも、大学院（同年5月申請の新大学院）進学希望者は13名であった。すなわち、12～13名以上の人間発達科学部在学生在がストレートマスターとなる意思を表明しており、教育学研究科と変わらぬ内部進学ニーズの存在がみとめられる。

表1

教育学研究科への志願・合格・入学者（平成17～22年度）

年度	17	18	19	20	21	5年平均	22
志願者	31	37	44	43	32	37.4	36
うち学校教育専攻	10	8	9	14	10	10.2	8
教科教育専攻	21	29	35	29	22	27.2	28
合格者	26	31	39	32	25	30.6	29
うち学校教育専攻	8	7	8	10	7	8.0	4
教科教育専攻	18	24	31	22	18	22.6	25
入学者	26	30	33	26	24	27.8	27
うち学校教育専攻	8	6	5	9	6	6.8	4
教科教育専攻	18	24	28	17	18	21.0	23
うち教育学部生	10	14	18	10	9	12.2	10
本学他学部生	1	2	2	2	4	2.2	7
他大学生	6	7	7	7	4	6.2	4
現職教員	9	7	6	7	7	7.2	6

（注）1. 依拠資料は、人間発達科学部教務グループ提供。他大学には留学生含む。

2. 22年度については、指導教員未定。

**(人間発達科学研究科各専攻への入学予測)**

このように、人間発達科学研究科についても教育学研究科と変わらぬ基礎学部からの内部進学ニーズがあり、一方、県推薦を含む現職教員についてもほぼ同数の確保が見込まれる。これに他学部及び学外進学者を勘案し、人間発達科学研究科への入学者数を教育学研究科の過去5年平均と同程度と推定する。

次に専攻別の入学者数を見るため、表2では過去5年の教育学研究科入学生の専門分野を人間発達科学研究科の各専攻各領域に対応させた。これによると、教育学研究科の入学者平均は、「発達教育専攻」については教育心理領域3.4名、学校教育領域9.2名(1.8+7.4)、発達福祉領域1.6名の合計14.2名、「発達環境専攻」については、地域スポーツ領域1.4名、環境社会デザイン領域5.8名、人間情報コミュニケーション領域6.2名の合計13.4名であった。現在の経済情勢に鑑み、新研究科においてはこの平均を若干下回る入学定員の設定が妥当と思われる。

以上より、人間発達科学研究科における入学定員を、発達教育専攻13名、発達環境専攻13名と設定する。

人間発達科学研究科においては、学校教員のみならず、将来、社会の様々な教育関連分野において活躍を志す有為の人材をより多く輩出すべく、学部学生、現職教員、社会人に対し様々な方法によって本研究科に関する情報を提供する。こうした広報活動を通じて地域社会のニーズを掘り起こし、さらなる志願者の増加と質の向上をめざす。

表2

富山大学大学院教育学研究科入学者の専門分野

専攻	専修	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	5年平均
学校教育	学校教育	8	6	5	9	6	6.8
	うち 教育心理分野	7	4	3	2	1	3.4
	学校教育分野	1	1	1	4	2	1.8
	発達福祉分野	0	1	1	3	3	1.6
教科教育	各教科教育	18	24	28	17	18	21.0
	うち 教科指導法(小学校)	7	11	8	5	6	7.4
	地域スポーツ分野	4	0	2	1	0	1.4
	環境社会デザイン分野	2	3	9	7	8	5.8
	人間情報コミュニケーション分野	4	10	9	4	4	6.2
	他	1					0.2

人間発達科学研究科の

対応する専攻・領域

<発達教育専攻>	
教育心理領域	} 14.2名
学校教育領域	
発達福祉領域	
*学校教育領域	
<発達環境専攻>	
地域スポーツ領域	} 13.4名
環境社会デザイン領域	
人間情報コミュニケーション領域	

(注)1.専門分野は新研究科の該当分野。 2.22年度については、指導教員未定のため掲載しない。 3.依拠資料は、人間発達科学部教務グループ提供。

**II 目標とする人材養成、課程修了後の進路**

人間発達科学研究科は、おもに学校教員養成をめざす教育学研究科とは異なり、基礎学部の養成目標をさらに高次の段階に発展させ、「広義の教育」すなわち「人間発達の支援・促進」と「人間発達の環境条件の改善・充実」について高度の専門的能力と高い指導性を備え、地域社会の持続的発展において主導的役割を果たしうる教育人材を養成する。その具体的進路としては、それぞれの専攻が掲げる履修モデル【別紙3・4】に基づく。

この人間発達科学研究科を構成する2専攻における人材養成の特色、及び課程修了後の進路は、次のとおりである。

**[発達教育専攻]**

発達教育専攻がめざすのは、地域社会における「広義の教育」の一翼を担う「人間発達の支援・促進」に関する専門的能力をもつ、指導的な教育人材の養成である。

修了後の具体的進路は、次のとおりである。

- 心理的、人間関係的な諸問題を抱える児童をサポートする  
公務員(児童相談所などの心理職・福祉職)、病院や教育NPO等の心理専門職
- 一般企業における人事労務担当部署の専門職
- 学校においてリーダーシップを発揮しうる教員
- 教材開発会社、教育関連企業の開発職
- 療育機関(通園センターや発達障害者支援センター)の指導員や保育現場の巡回相談員
- 特別支援学校においてリーダーシップを発揮しうる教員

その他、社会福祉協議会の専門職等があげられる。同時に、社会人特に現職教員の再教育についても配慮する。

**[発達環境専攻]**

発達環境専攻がめざすのは、地域社会における「広義の教育」の一翼を担う「人間発達の環境条件の改善・充実」に関する専門的能力をもつ、指導的な教育人材の養成である。

修了後の具体的進路は、次のとおりである。

- 健康教育プログラムの開発を通じ、健康増進及び体力向上を図る  
地方公共団体の専門職、総合型地域スポーツクラブや一般企業の福利厚生部門等の企画・立案担当者
- 環境教育及び減災教育カリキュラムの開発を通じ、安全・安心な社会設計にあたる  
地方公共団体の専門職、環境NPO法人や教育関連企業の企画・立案担当者、社会教育主事
- 表現教育に関わる事業を実施する  
イベント企業・団体のプロデューサー、地方公共団体や一般企業のホール等文化施設の企画・立案担当者
- 語学教育に関わる教材コンテンツの開発に携わるメディアクリエイター

この他に学校を含む教育機関の指導的教育職員等を想定する。

このように、人間発達科学研究科の両専攻においては、「人間発達の支援・促進」と「人間発達の環境条件の改善・充実」を通じて、地域社会の持続的発展に貢献する「広義の教育」人材の養成を主眼としており、この点が既設教育学研究科とは異なる特色である。

### III 「発達教育専攻」設置の趣旨と必要性

地域社会の持続的発展のための最重要資源は、人的資源である。発達教育専攻では、「広義の教育」を指向する人間発達科学部における基礎的理解から発展して、地域社会に不可欠な人間の生涯にわたる発達そのものの支援・促進に関する教育・研究を推進する。このために、乳幼児期から高齢期に至るまでの、特別支援教育の対象範囲を含む人間の発達上の諸課題について、それぞれ心理、教育、保育、福祉の視点から高度な専門的教育・研究を行う。

これにより、確かな教育能力と研究能力をもとに、生涯学習や教育行政などと関連付けて地域社会の人間発達を支援・促進しうる能力をもつ指導的な教育人材を養成する。

また、教育課程に配置された教職に関する科目中心の履修により専修免許の取得が可能であり、これによって学校教員の養成と現職教員の再教育の要望に対応する。

### IV 教育課程編成の考え方・特色

人間発達科学研究科においては、基礎学部とともに他大学からの進学生、また現職学校教員等の社会人を受け入れる。既に学部において基礎的な知識と理論を学修し、一定水準の卒業論文を作成していることを前提に、幅広い分野で指導的役割を果たしうる「広義の教育」人材の養成をめざして、次のような教育課程を組む。

#### 1. 2専攻による教育体制

人間発達科学部における「広義の教育」人材の養成という目標を発展・深化させるために、人間発達科学研究科においては、基礎学部の2学科と理念的・制度的に連続する2専攻を置く。すなわち、直接人間に働きかけてより高次の人間発達を実現するための教育・研究を主眼とする「発達教育専攻」と、人間に働きかける上で有効な教育プログラムやカリキュラムの開発等を通じて、より高次の人間発達を実現するための教育・研究を主眼とする「発達環境専攻」という2つの専攻を置く。また、学生の科目履修と進路の目安として、発達教育専攻には教育心理、学校教育、発達福祉の3領域を、同じく発達環境専攻には地域スポーツ、環境社会デザイン、人間情報コミュニケーションの3領域を置く。

学生は「人間発達の支援・促進」に係る「発達教育専攻」、または、「人間発達の環境条件の改善・充実」に係る「発達環境専攻」の何れかに属し、少人数の充実した教育・研究指導体制のもとで、両専攻それぞれ3つの領域に配置された専門科目を、履修モデル【別紙3・4】を参考にして履修することで、研究の進展に必要な専門的能力を修得して専門性を高めることができる。

#### (専攻の名称について)

人間発達科学研究科の2専攻体制は、人間発達科学部の発達教育学科と人間環境システム学科という2学科体制に照応する。

すなわち、「発達教育専攻」では、学部の発達教育学科を基礎に、人間の発達上の諸課題（特別支援教育の対象範囲を含む）について、人間発達そのものを支援・促進する心理、教育、保育、福祉の視点から学部段階よりも高次の教育・研究を行う。名称はそれにふさわしく「発達教育専攻」とする。

一方、学部の人間環境システム学科を基礎とする「発達環境専攻」は、「広義の教育」の一翼を担う「人間発達の環境条件の改善・充実」に関する高度な専門的教育・研究を行う。基礎となる人間環境システム学科における学修が、人間発達の環境条件の一つの体系的システムとして理解するための基礎的能力の修得であるのに対し、本専攻ではさらに踏み込んで、人間発達に資するかたちで環境条件の改善・充実を実践的かつ効果的に遂行しうる、高度な専門的能力を修得した教育人材の養成に焦点をあてている。このため、名称はそれにふさわしく「発達環境専攻」とする。

#### 2. 専門科目－発達教育専攻－

①発達教育専攻においては、人間発達科学部発達教育学科における基礎的な学修を進展させ、乳幼児期から高齢期に至るまでの人間の発達上の諸課題（特別支援教育の対象範囲を含む）について、人間発達そのものを支援・促進する心理、教育、保育、福祉の視点から高次の教育・研究を行う。

なお、関連する専門知識修得のため、所属以外の専攻の授業科目もしくは他の研究科等の専攻の授業科目を、自由選択として4単位まで含めることができる。

②各領域に配置された「専門科目」の概要は、次のとおりである。

#### (教育心理領域)

学習者と教授者の発達、認知、行動、人間関係や環境に関する心理学的な理解を深め、様々な要因が複雑に絡み合う教授－学習場面に関する現代的な諸問題を心理学的な側面から解明及び解決し、人間発達を支援する人材育成の知識と技能等の修得をめざす。このために、「教育心理学特論」、「発達臨床心理学特論」、「社会認知神経科学特論」、「教育データ解析法」、「学習心理学特論」等、及び各演習を配置する。

#### (学校教育領域)

学校教育の基礎ならびに内なるグローバル化などの現代的諸課題について、教育の哲学、歴史、方法、制度、行政などから追究するとともに、高度な実践的力量的養成をめざして各教科の目標、意義、教材構成論、指導方法などの多面的視点から専門的研究を行う。このために、「教育哲学特論」、「教育史特論」、「教育行政学特論」、「教育社会学特論」、「教育工学特論」、各教科教育特論等、及び各演習を配置する。

#### (発達福祉領域)

幼児の成長と発達について変化する生活環境や家庭環境との関係を考慮した的確な支援や、特別支援が必要な子どもに対する学習面・生活面での支援、さらに、障害をもつ人が高いQOLをもって生活できるための社会的条件の実現と発達支援について、高度で専門的な研究を行う。このために、「保育内容の研究特論」、「発達障害療育支援論」、「発達障害支援学特論」、「アクセシビリティ論」、「生活福祉特論」、「精神保健福祉特論」等、及び各演習を配置する。

### 3. 専攻間連携科目

「広義の教育」の研究の深化をめざすために、両専攻にまたがる学際的科目を置き、3科目6単位を選択必修とした。配置された授業科目の概要は、以下のとおりである。

教育の理念と方法について：

「生涯学習特論」、「学校教育学特論」、「教育実践学特論」、「特別支援教育論」、「教育研究計画法」

生涯にわたる人間発達の心理的側面の支援について：

「教育心理学研究法特論」、「発達心理学特論」、「カウンセリング特論」

身体的な発達のあり方について：

「健康システム特論」、「スポーツ医学特論」

持続社会形成に必要なコミュニケーションについて：

「地球市民社会特論」、「異文化コミュニケーション特論」、「科学コミュニケーション特論」、

「障害児コミュニケーション行動支援特論」、「メディアコミュニケーション特論」

### 4. 自由選択

学生は、指導教員と相談の上、研究計画に則って、選択必修として履修した以外の「専門科目」、「専攻間連携科目」から自由選択として8単位を履修しなければならない。

なお、関連する専門的能力修得のため、所属以外の専攻の授業科目もしくは他の研究科等の専攻の授業科目を、自由選択として4単位まで含めることができる。

### 5. 特別研究

学位論文作成に係る体系的な学修を行うため、課題研究を設ける。

学生は、専門的で焦点化した研究主題について課題を設定し、指導教員から研究方法を学びつつ文献検索、調査、実験等によりデータを収集し、それらの結果を分析・考察し、修士論文としてまとめ、研究成果を発表する。指導教員は、学生ごとの理解度、進行度等を評価しながら、研究テーマが一連の研究手順に沿って進行していくよう支援する。

### 6. 学校教員養成・現職教員再教育への配慮

発達教育専攻学生は、幼稚園・小学校・特別支援学校の専修免許状の取得が可能である。

発達環境専攻学生は、自由科目の追加履修によって、中学校・高等学校の専修免許状の取得が可能である。

修了要件及び履修方法	授業期間等	
「専門科目」から選択必修として6科目12単位、「専攻間連携科目」から選択必修として3科目6単位、自由選択として、選択必修として履修した以外の「専門科目」または「専攻間連携科目」から8単位、必修として「特別研究」4単位を含め、計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本課程の目的に応じ修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 なお、所属以外の専攻の授業科目もしくは他の研究科等の専攻の授業科目を、自由選択として4単位まで含めることができる。	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

教育課程等の概要 (事前伺い)

(人間発達科学研究科 発達環境専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基幹科目	生涯発達特論	1前		2		○			1					オムニバス 4単位選択必修
	持続可能社会形成特論	1前		2		○		2						
	問題解決学特論	1前		2		○		1						
	教育方法と技術特論	1前		2		○		1						
	教育方法と技術特論演習	1後		2			○		1					
	小計 (5科目)		—	0	10	0			4	1	0	0	0	0
専門科目	《地域スポーツ領域》													※1 ※1・※2・※3 をいずれかの領域から1領域を選択し、その領域の中から8単位
	スポーツマネジメント特論	1前		2		○		1						
	スポーツマネジメント特論演習	1後		2			○		1					
	スポーツ文化史特論	1前		2		○		1						
	パフォーマンスアート特論	1前		2		○			1					
	生命科学特論	1前		2		○				1				
	食環境特論	1前		2		○				1				
	スポーツ医学特論演習	1後		2			○		1					
	スポーツバイオメカニクス特論	1前		2		○			1					
	コーチ学特論	1前		2		○					1			
	運動指導法特論演習	1後		2			○		1		1			
	《環境社会デザイン領域》													
	環境法特論	1前		2		○			1					
	地球環境教育特論演習	1後		2			○		2	1				
	モデル化とシミュレーション特論	1前		2		○			1					
	自然現象のシミュレーション特論演習	1後		2			○		1		1			
	地理空間特論演習	1後		2			○		2					
	西欧都市環境史特論	1前		2		○			1					
	減災教育特論	1前		2		○			1					
	住環境特論	1前		2		○				1				
	衣環境特論	1前		2		○			1					
	睡眠環境特論	1前		2		○			1					
	《人間情報コミュニケーション領域》													
	情報マネジメント特論	1前		2		○			1					
	情報メディア学特論	1前		2		○			1					
	視覚文化特論	1前		2		○			1					
	ミュージックインタープリテーション特論	1前		2		○			1					
	人間情報コミュニケーション特論演習	1後		2			○		3	1				
	コンテンツデザイン特論	1前		2		○				1				
	ヒューマンインタフェース特論	1前		2		○			1					
	言語習得特論	1前		2		○			1					
日本語表現文化特論	1前		2		○			1						
言語文化構造特論	1前		2		○				1					
異文化コミュニケーション特論演習	1後		2			○			1					
小計 (31 科目)		—	0	62	0			19	8	4	0	0	0	—
専攻間連携科目	スポーツ医学特論	1前		2		○			1					オムニバス 6単位選択必修
	地球市民社会特論	1前		2		○		1						
	科学コミュニケーション特論	1後		2		○			1					
	健康システム特論	1前		2		○		1						
	メディアコミュニケーション特論	1前		2		○		1	1					
	異文化コミュニケーション特論	1前		2		○		1	1					
	生涯学習特論	1後		2		○		1						
	教育心理学研究法特論	1前		2		○						兼1		
	発達心理学特論	1前		2		○						兼1		
	学校教育科学特論	1前		2		○						兼2		
	教育研究計画法	1前		2		○						兼1		
	カウンセリング特論	1前		2		○						兼1		
	教育実践学特論	1前		2		○						兼1		
	特別支援教育論	1前		2		○						兼1		
	障害児コミュニケーション行動支援特論	1後		2		○						兼1		
小計 (15科目)		—	0	30	0			5	3	0	0	0	兼9	—
特別研究	課題研究Ⅰ	2前	2				○		24	6	3			
	課題研究Ⅱ	2後	2				○		24	6	3			
	小計 (2科目)		—	4	0	0			24	6	3	0	0	0





## I 人間発達科学研究科設置の趣旨・必要性

## 1. 人間発達科学研究科の課題

平成6年に設置された大学院修士課程教育学研究科は、教育学部からの進学者に加えて、大学院設置基準第14条特例を利用して地元現職教員の再教育学部場として地域に貢献してきた。その後、平成17年10月、教員養成のための目的学部であった教育学部を改組し、地域（地方）社会に幅広く貢献する指導的人材の育成を目的とする人間発達科学部（「発達教育」、「人間環境システム」の2学科構成）を設置した。現代日本においては首都圏・大都市圏への人口集中や地方産業の縮小が進行しつつあるが、人間発達科学部は、地域社会の再生と振興をはかる上で最も重要な資源となる人間について、生涯にわたる発達の支援・促進と発達の環境条件の改善・充実を担う、「広義の教育」人材を養成する拠点としての責務を担う。

人間発達科学部における「広義の教育」の視点を深めようとする学部からの進学者、現職教員、社会人のために、学部段階における研究課題をさらに追究し、地域社会の持続的発展に資する教育・研究拠点が必要となる。教育学部を基礎とした既設の教育学研究科は学校教育に関する教育・研究と教員を中心とした人材養成を主眼とするため、同研究科を、人間発達科学部と制度的に対応し、「広義の教育」に関する高次の教育・研究と、学校を含む幅広い分野で指導的役割を果たしうる教育人材の養成をめざす新たな研究科に移行させる必要がある。

また、既設の教育学研究科は、地域に根ざす国立大学として教員養成とともに地元現職教員の再教育機能を担い、とくに平成7年度以降、富山県教育委員会の協力を得て現職学校教員を受け入れ、富山県の教員リーダーとなるべき人材へと育て上げる重責を担ってきた。基礎としてきた教育学部の人間発達科学部への改組にともない、この教育学研究科を「広義の教育」を追究する一般研究科に改組するに際しても、富山県教育委員会と連携しつつ教員養成と現職教員再教育の機能を引き続き維持する必要がある。

## 2. 「広義の教育」のための研究科体制の構築

上記の課題に対応するために、既設の教育学研究科を、人間発達科学部を基礎とし適正な受入れ規模の人間発達科学研究科に改組する【別紙1・2】。そして、人間発達科学部からの進学者、現職教員、社会人に対し、より高度の教育・研究機会を提供し、同時に富山県唯一の教員養成機能をもつ国立大学として地域社会の期待に応えるべく教員養成・現職教員再教育の機会を提供する。

これらを通じ、新しい研究科においては、「広義の教育」に携わる教育人材を養成する。ここでいう「広義の教育」とは、生涯学習や学校教育や企業内教育の場における「人間発達の支援・促進」と「人間発達の環境条件の改善・充実」との2つから成る。「人間発達の支援・促進」とは、直接人間に働きかけてより高次の人間発達を実現することと定義する。具体的にはカウンセリング等の心理的指導、学校や企業等における教師としての教育・指導、福祉現場や保育現場の巡回指導等を指す。一方、「人間発達の環境条件の改善・充実」とは、人間に働きかける上で有効な教育プログラムやカリキュラムの開発等を通じて、より高次の人間発達を実現することと定義する。具体的には健康教育プログラムの開発、環境教育及び防災教育カリキュラムの開発、表現教育に関わるホールや文化施設等の事業企画・立案、語学教育に関わる教材コンテンツの開発等を指す。

人間発達科学研究科は、「人間発達の支援・促進」と「人間発達の環境条件の改善・充実」を追究するために、「発達教育専攻」と「発達環境専攻」という2専攻を置いて高度の教育・研究を行い、これを通じて学生を地域社会の持続的発展に資する主導的な「広義の教育」人材として養成する。

入学定員については、その研究領域と既設教育学研究科の過去5年間の入学生の専門分野との対応関係を慎重に検討した結果、発達教育専攻13名、発達環境専攻13名、研究科合計26名と設定する。

## 3. 入学定員設定の根拠

人間発達科学研究科における入学定員を、発達教育専攻13名、発達環境専攻13名と設定する根拠は次のとおりである。

## （教育学研究科への進学実績）

表1の既設教育学研究科における過去5年の志願・合格・入学状況をみると、入学者数平均は27.8名であった。その中心は12.2名に及ぶ「教育学部生」であり、また富山県教育委員会の推薦を受けた中から選ばれた6名の現職教員であった。同研究科にはこのように、専門研究のさらなる深化を望む学部生の内部進学ニーズとともに、県からの現職教員再教育ニーズが存在してきた（なお、県教育委員会からの現職教員推薦は平成7年度以降）。

## （人間発達科学部生へのアンケート）

そして、同様の進学ニーズは、人間発達科学研究科においても継続される見込みである。平成22年2月の人間発達科学部3年生（23年3月卒業予定者170名、回答数62）に対する進学アンケートによると、人間発達科学研究科への進学希望者は、「必ず行きたい」2名、「進学を考えたい」10名の、あわせて12名（専攻内訳は、発達教育5、発達環境7）であった。平成21年8月の人間発達科学部4年生（22年3月卒業予定者）に対する同様の調査でも、大学院（同年5月申請の新大学院）進学希望者は13名であった。すなわち、12～13名以上の人間発達科学部在学生在がストレートマスターとなる意思を表明しており、教育学研究科と変わらぬ内部進学ニーズの存在がみとめられる。

表1 教育学研究科への志願・合格・入学者（平成17～22年度）

年度	17	18	19	20	21	5年平均	22
志願者	31	37	44	43	32	37.4	36
うち学校教育専攻	10	8	9	14	10	10.2	8
教科教育専攻	21	29	35	29	22	27.2	28
合格者	26	31	39	32	25	30.6	29
うち学校教育専攻	8	7	8	10	7	8.0	4
教科教育専攻	18	24	31	22	18	22.6	25
入学者	26	30	33	26	24	27.8	27
うち学校教育専攻	8	6	5	9	6	6.8	4
教科教育専攻	18	24	28	17	18	21.0	23
うち教育学部生	10	14	18	10	9	12.2	10
本学他学部生	1	2	2	2	4	2.2	7
他大学生	6	7	7	7	4	6.2	4
現職教員	9	7	6	7	7	7.2	6

（注）1. 依拠資料は、人間発達科学部教務グループ提供。他大学には留学生を含む。

2. 22年度については、指導教員未定。

## (人間発達科学研究科各専攻への入学予測)

このように、人間発達科学研究科についても教育学研究科と変わらぬ基礎学部からの内部進学ニーズがあり、一方、県推薦を含む現職教員についてもほぼ同数の確保が見込まれる。これに他学部及び学外進学者を勘案し、人間発達科学研究科への入学者数を教育学研究科の過去5年平均と同程度と推定する。

次に専攻別の入学者数を見るため、表2では過去5年の教育学研究科入学生の専門分野を人間発達科学研究科の各専攻各領域に対応させた。これによると、教育学研究科の入学者平均は、「発達教育専攻」については教育心理領域3.4名、学校教育領域9.2名(1.8+7.4)、発達福祉領域1.6名の合計14.2名、「発達環境専攻」については、地域スポーツ領域1.4名、環境社会デザイン領域5.8名、人間情報コミュニケーション領域6.2名の合計13.4名であった。現在の経済情勢に鑑み、新研究科においてはこの平均を若干下回る入学定員の設定が妥当と思われる。

以上より、人間発達科学研究科における入学定員を、発達教育専攻13名、発達環境専攻13名と設定する。

人間発達科学研究科においては、学校教員のみならず、将来、社会の様々な教育関連分野において活躍を志す有為の人材をより多く輩出すべく、学部学生、現職教員、社会人に対し様々な方法によって本研究科に関する情報を提供する。こうした広報活動を通じて地域社会のニーズを掘り起こし、さらなる志願者の増加と質の向上をめざす。

表2 富山大学大学院教育学研究科入学者の専門分野

専攻	専修	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	5年平均
学校教育	学校教育	8	6	5	9	6	6.8
	うち 教育心理分野	7	4	3	2	1	3.4
	学校教育分野	1	1	1	4	2	1.8
	発達福祉分野	0	1	1	3	3	1.6
各教科教育	各教科教育	18	24	28	17	18	21.0
	うち 教科指導法(小学校)	7	11	8	5	6	7.4
	地域スポーツ分野	4	0	2	1	0	1.4
	環境社会デザイン分野	2	3	9	7	8	5.8
	人間情報コミュニケーション分野	4	10	9	4	4	6.2
	他	1					0.2

人間発達科学研究科の  
対応する専攻・領域

<発達教育専攻>	
教育心理領域	} 14.2名
学校教育領域	
発達福祉領域	
*学校教育領域	
<発達環境専攻>	
地域スポーツ領域	} 13.4名
環境社会デザイン領域	
人間情報コミュニケーション領域	

(注)1.専門分野は新研究科の該当分野。2.22年度については、指導教員未定のため掲載しない。3.依拠資料は、人間発達科学部教務グループ提供。

## II 目標とする人材養成、課程修了後の進路

人間発達科学研究科は、おもに学校教員養成をめざす教育学研究科とは異なり、基礎学部の養成目標をさらに高次の段階に発展させ、「広義の教育」すなわち「人間発達の支援・促進」と「人間発達の環境条件の改善・充実」について高度の専門的能力と高い指導性を備え、地域社会の持続的発展において主導的役割を果たしうる教育人材を養成する。その具体的進路としては、それぞれの専攻が掲げる履修モデル【別紙3・4】に基づく。

この人間発達科学研究科を構成する2専攻における人材養成の特色、及び課程修了後の進路は、次のとおりである。

### [発達教育専攻]

発達教育専攻がめざすのは、地域社会における「広義の教育」の一翼を担う「人間発達の支援・促進」に関する専門的能力をもつ、指導的な教育人材の養成である。

修了後の具体的進路は、次のとおりである。

- 心理的、人間関係的な諸問題を抱える児童をサポートする  
公務員(児童相談所などの心理職・福祉職)、病院や教育NPO等の心理専門職
- 一般企業における人事労務担当部署の専門職
- 学校においてリーダーシップを発揮しうる教員
- 教材開発会社、教育関連企業の開発職
- 療育機関(通園センターや発達障害者支援センター)の指導員や保育現場の巡回相談員
- 特別支援学校においてリーダーシップを発揮しうる教員

その他、社会福祉協議会の専門職等があげられる。同時に、社会人特に現職教員の再教育についても配慮する。

### [発達環境専攻]

発達環境専攻がめざすのは、地域社会における「広義の教育」の一翼を担う「人間発達の環境条件の改善・充実」に関する専門的能力をもつ、指導的な教育人材の養成である。

修了後の具体的進路は、次のとおりである。

- 健康教育プログラムの開発を通じ、健康増進及び体力向上を図る  
地方公共団体の専門職、総合型地域スポーツクラブや一般企業の福利厚生部門等の企画・立案担当者
  - 環境教育及び減災教育カリキュラムの開発を通じ、安全・安心な社会設計にあたる  
地方公共団体の専門職、環境NPO法人や教育関連企業の企画・立案担当者、社会教育主事
  - 表現教育に関わる事業を実施する  
イベント企業・団体のプロデューサー、地方公共団体や一般企業のホール等文化施設の企画・立案担当者
  - 語学教育に関わる教材コンテンツの開発に携わるメディアクリエイター
- この他に学校を含む教育機関の指導的教育職員等を想定する。

このように、人間発達科学研究科の両専攻においては、「人間発達の支援・促進」と「人間発達の環境条件の改善・充実」を通じて、地域社会の持続的発展に貢献する「広義の教育」人材の養成を主眼としており、この点が既設教育学研究科とは異なる特色である。

### III 「発達環境専攻」設置の趣旨・必要性

地域社会の持続的発展のための最重要資源は人的資源であり、より高次の人間発達を実現するためには、発達そのものの支援・促進と並んで、その環境条件の改善・充実が必要不可欠である。そこで発達環境専攻では、学部で掲げる「広義の教育」の視点をさらに発展させ、「人間発達の環境条件の改善・充実」のための高度な専門的教育・研究を行う。

本専攻では、人間に働きかける上で有効な教育プログラムやカリキュラムの開発等を通じて、より高次の人間発達を実現できる「広義の教育」人材、すなわち健康教育プログラムの開発、環境教育及び減災教育カリキュラムの開発、表現教育に関わるホールや文化施設の事業の企画・立案、語学教育に関わる教材コンテンツの開発等の能力を有する教育人材を養成する。

なお、教育課程の修了要件外に配置された教職及び教科に関する科目を併せて履修することで専修免許の取得が可能であり、現職教員再教育の要望に対応する。

### IV 教育課程編成の考え方・特色

人間発達科学研究科においては、基礎学部とともに他大学からの進学生、また現職学校教員等の社会人を受け入れる。既に学部において基礎的な知識と理論を学修し、一定水準の卒業論文を作成していることを前提に、幅広い分野で指導的役割を果たしうる「広義の教育」人材の養成をめざして、次のような教育課程を組む。

#### 1. 2専攻による教育体制

人間発達科学部における「広義の教育」人材の養成という目標を発展・深化させるために、人間発達科学研究科においては、基礎学部の2学科と理念的・制度的に連続する2専攻を置く。すなわち、直接人間に働きかけてより高次の人間発達を実現するための教育・研究を主眼とする「発達教育専攻」と、人間に働きかける上で有効な教育プログラムやカリキュラムの開発等を通じて、より高次の人間発達を実現するための教育・研究を主眼とする「発達環境専攻」という2つの専攻を置く。また、学生の科目履修と進路の目安として、発達教育専攻には教育心理、学校教育、発達福祉の3領域を、同じく発達環境専攻には地域スポーツ、環境社会デザイン、人間情報コミュニケーションの3領域を置く。

学生は「人間発達の支援・促進」に係る「発達教育専攻」、または、「人間発達の環境条件の改善・充実」に係る「発達環境専攻」の何れかに属し、少人数の充実した教育・研究指導体制のもとで、両専攻それぞれ3つの領域に配置された専門科目を、履修モデル【別紙3・4】を参考にして履修することで、研究の進展に必要な専門的能力を修得して専門性を高めることができる。

#### (専攻の名称について)

人間発達科学研究科の2専攻体制は、人間発達科学部の発達教育学科と人間環境システム学科という2学科体制に照応する。

すなわち、「発達教育専攻」では、学部の発達教育学科を基礎に、人間の発達上の諸課題（特別支援教育の対象範囲を含む）について、人間発達そのものを支援・促進する心理、教育、保育、福祉の視点から学部段階よりも高次の教育・研究を行う。名称はそれにふさわしく「発達教育専攻」とする。

一方、学部の人間環境システム学科を基礎とする「発達環境専攻」は、「広義の教育」の一翼を担う「人間発達の環境条件の改善・充実」に関する高度な専門的教育・研究を行う。基礎となる人間環境システム学科における学修が、人間発達の環境条件を一つの体系的システムとして理解するための基礎的能力の修得であるのに対し、本専攻ではさらに踏み込んで、人間発達に資するかたちで環境条件の改善・充実を実践的かつ効果的に遂行しうる、高度な専門的能力を修得した教育人材の養成に焦点をあてている。このため、名称はそれにふさわしく「発達環境専攻」とする。

#### 2. 発達環境専攻における教育課程の科目区分

発達環境専攻の教育課程には、「基幹科目」、「専門科目」、「専攻間連携科目」、「特別研究」、「自由科目」の科目区分を置く。

このうち「基幹科目」と「専攻間連携科目」は、多世代にわたる人々に分かりやすく教育・指導する能力を修得させる科目である。また、「専門科目」は、健康、自然、社会、生活、コミュニケーション分野の専門的能力を修得させる科目である。これらの科目を体系的に履修させることで、「人間発達の環境条件の改善・充実」に関する高度な専門的能力を有する「広義の教育」人材を養成する。

なお、関連する専門的能力修得のため、所属以外の専攻の授業科目もしくは他の研究科等の専攻の授業科目を、自由選択として4単位まで含めることができる。

#### 3. 基幹科目－発達環境専攻－

「基幹科目」は、生涯学習の理念と教育方法に関する科目として配置した。

「生涯発達特論」と「持続可能社会形成特論」は、発達段階に適合した学習の意義と、学習が展開される現代社会の特性を理解させる科目である。

「問題解決学特論」は、学習者が直面する様々な問題点とそれを解決する方法について理解させる科目である。

「教育方法と技術特論」、「教育方法と技術特論演習」は、学習者をより効率的な問題解決へと導く指導法について理解させる科目である。

学生は、「基幹科目」に配置されたこれら5つの授業科目の中から、2科目4単位を選択必修として履修しなければならない。

#### 4. 専門科目－発達環境専攻－

「専門科目」は、「広義の教育」の一翼を担う「人間発達の環境条件の改善・充実」に関する専門的能力を修得するための科目である。この「専門科目」は修了後の進路に対応して、地域スポーツ領域、環境社会デザイン領域、人間情報コミュニケーション領域に分けて配置した。学生は、3つの領域から1つの領域を選択し、その領域に配置された授業科目の中から4科目8単位を選択必修として履修しなければならない。

それぞれの領域に配置された授業科目の概要は、以下のとおりである。

**地域スポーツ領域**には、競技スポーツ選手の養成を目的とする科目ではなく、生涯学習における健康増進及び体力向上のための健康教育プログラムの開発方法と、それを生かしたスポーツ等のイベントの企画・立案能力を修得するための科目を配置した。これらの「専門科目」と、教育・指導の能力を修得させる科目である「基幹科目」及び「専攻間連携科目」を合わせて履修させることで、健康教育プログラムの開発能力を修得する。

スポーツ等のイベントの企画・立案能力について：

「スポーツマネジメント特論」、「スポーツマネジメント特論演習」、「スポーツ文化史特論」、  
「パフォーマンスアート特論」

身体の仕組みについて：

「生命科学特論」、「スポーツバイオメカニクス特論」

健康や体力と運動の関係について：

「食環境特論」、「スポーツ医学特論演習」

健康増進及び体力向上プログラムの開発について：

「コーチ学特論」、「運動指導法特論演習」

**環境社会デザイン領域**には、地域の持続的発展に資する安全・安心な社会を設計するための、自然、地理、都市、生活の環境保全及び被災後のアフターケアを含む減災手法等に関する科目を配置した。これらの「専門科目」と、「基幹科目」及び「専攻間連携科目」を合わせて履修させることで、環境教育及び減災教育カリキュラム開発能力を修得する。すなわち「基幹科目」では、教育方法や教育技術に関する能力、「専攻間連携科目」では、「専門科目」で修得したそれぞれの内容を関連付けて多世代にわたる人々に分かりやすく教育・指導する能力を修得する。これらを総合的に修得することで教育カリキュラム開発が可能となる。

法的側面からの環境保全及び減災手法について：

「環境法特論」

自然環境と災害発生のメカニズムについて：

「地球環境教育特論演習」、「モデル化とシミュレーション特論」、「自然現象のシミュレーション特論演習」

気候や地形と災害との関係について：

「地理空間特論演習」

都市環境政策における先進モデルについて：

「西欧都市環境史特論」

環境や減災教育に関する理念について：

「減災教育特論」

生活環境の改善方法と被災者のアフターケアについて：

「住環境特論」、「衣環境特論」、「睡眠環境特論」

**人間情報コミュニケーション領域**には、表現教育における指導方法と語学教育に関わるコンテンツについて理解し、表現活動を発表するイベントやコンテンツを提供する教材開発等を企画・立案する手段・方法を修得するための科目を配置した。これらの「専門科目」と、教育・指導の能力を修得させる科目である「基幹科目」及び「専攻間連携科目」を合わせて履修させることで、表現教育に関わるホールや文化施設等の事業企画・立案能力、語学教材コンテンツ開発能力を修得する。

表現教育の成果と言語学習のコンテンツの提供について：

「情報マネジメント特論」

映像、美術、音楽、舞台芸術など多様な表現教育の実践について：

「情報メディア学特論」、「視覚文化特論」、「ミュージックインタープリテーション特論」

企画実現に必要なコミュニケーション力と現場運営スキルについて：

「人間情報コミュニケーション特論演習」

イベントや学習内容のデザイン力について：

「コンテンツデザイン特論」

学習方法や学習ツールについて：

「ヒューマンインタフェース特論」

語学教材コンテンツ開発に必要な言語等のコミュニケーションスキルについて：

「言語習得特論」、「日本語表現文化特論」、「言語文化構造特論」、「異文化コミュニケーション特論演習」

#### 5. 専攻間連携科目

「広義の教育」の研究の深化をめざすために、両専攻にまたがる学際的科目を置き、3科目6単位を選択必修とした。配置された授業科目の概要は、以下のとおりである。

教育の理念と方法について：

「生涯学習特論」、「学校教育学特論」、「教育実践学特論」、「特別支援教育論」、「教育研究計画法」

生涯にわたる人間発達の心理的側面の支援について：

「教育心理学研究法特論」、「発達心理学特論」、「カウンセリング特論」

身体的な発達のあり方について：

「健康システム特論」、「スポーツ医学特論」

持続社会形成に必要なコミュニケーションについて：

「地球市民社会特論」、「異文化コミュニケーション特論」、「科学コミュニケーション特論」、  
「障害児コミュニケーション行動支援特論」、「メディアコミュニケーション特論」

## 6. 自由選択

学生は、指導教員と相談の上、研究計画に則って、選択必修として履修した以外の「基幹科目」、「専門科目」、「専攻関連連携科目」から自由選択として8単位を履修しなければならない。

なお、関連する専門的能力を修得するため、所属以外の専攻の授業科目もしくは他の研究科等の専攻の授業科目を、自由選択として4単位まで含めることができる。

## 7. 特別研究

学位論文作成に係る体系的な学修を行うため、課題研究を設ける。

学生は、専門的で焦点化した研究主題について課題を設定し、指導教員から研究方法を学びつつ文献検索、調査、実験等によりデータを収集し、それらの結果を分析・考察し、修士論文としてまとめ、研究成果を発表する。指導教員は、学生ごとの理解度、進行度等を評価しながら、研究テーマが一連の研究手順に沿って進行していくよう支援する。

## 8. 自由科目－発達環境専攻－

「自由科目」として、「基幹科目」、「専門科目」、「専攻関連連携科目」、「特別研究」の修了要件単位となる授業科目のほかに、修了要件にはならない科目区分を設けて授業科目を配置した。「自由科目」において、特論演習は「専門科目」に配置された特論により修得した専門的能力をさらに深化させるための演習科目であり、特論は修得した専門的能力に広がりをもたせるための関連分野に関する講義科目である。学生は研究計画に支障のない範囲で自由に履修することができる。

なお、ここに配置された科目を修了要件単位に追加して履修することで、専修免許状の取得が可能である。

## 9. 学校教員養成・現職教員再教育への配慮

発達教育専攻学生は、幼稚園・小学校・特別支援学校の専修免許状の取得が可能である。

発達環境専攻学生は、自由科目の追加履修によって、中学校・高等学校の専修免許状の取得が可能である。

修了要件及び履修方法	授業期間等	
「基幹科目」から選択必修として2科目4単位、「専門科目」から選択必修として4科目8単位、「専攻関連連携科目」から選択必修として3科目6単位、自由選択として、選択必修として履修した以外の「基幹科目」、「専門科目」、「専攻関連連携科目」から8単位、必修として「特別研究」4単位を含め、計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本課程の目的に応じ修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 なお、所属以外の専攻の授業科目もしくは他の研究科等の専攻の授業科目を、自由選択として4単位まで含めることができる。 また、修了要件外の単位として、「自由科目」を履修することができる。	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科 学校教育専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	学校教育研究Ⅰ(教育学系)	1前	2			○			2						オムニバス
	学校教育研究Ⅱ(教育心理学系)	1後	2			○			2						オムニバス
	小計(2科目)	—	4	0	0				4	0	0	0	0		—
専攻科目	《教育学(教育史)》														
	教育哲学特論	1前	2			○			1						
	教育哲学特論演習	1後	2				○		1						
	教育史特論	1後	2			○			1						
	教育史特論演習	1前	2				○		1						
	《教育心理学》														
	教育心理学特論	1後	2			○			1						
	実験社会心理学特論演習	1後	2				○			1					
	臨床心理学特論	1前	2			○			1						
	心理検査法特論演習	1前	2				○		1						
	教育実験計画法	1前	2			○			1						
	教育多変量解析法	1後	2			○			1						
	《発達心理学》														
	発達心理学特論	1前	2			○				1					
	発達心理学特論演習	1後	2				○			1					
	発達臨床心理学特論	1前	2			○					1				
	発達臨床心理学特論演習	1後	2				○				1				
	学校カウンセリング特論	1前	2			○					1				
	学校カウンセリング特論演習	1後	2				○				1				
	《学校経営》														
	学校経営特論	1前	2			○				1					
	学校経営特論演習	1後	2				○			1					
	《教育社会学》														
	教育社会学特論	1前	2			○				1					
	教育社会学特論演習	1後	2				○			1					
	《教育内容・方法論》														
	教育課程特論	1前	2			○				1					
	教育課程特論演習	1後	2				○			1					
	教育方法学特論Ⅰ	1前	2			○									
	教育方法学特論演習Ⅰ	1後	2				○								
	教育方法学特論Ⅱ	1前	2			○				1					
	教育方法学特論演習Ⅱ	1後	2				○			1					
	教育工学特論	1前	2			○			1						
	教育工学特論演習	1後	2				○		1						
	《道德教育》														
	道德教育論	1前	2			○									
	《特別支援教育に関する教育》														
	障害児教育学特論	1前	2			○				1					
	障害児教育学特論演習	1前	2				○			1					
	発達障害児教育学特論	1後	2			○				1					
発達障害児教育学特論演習	1後	2				○			1						
障害児指導法特論	1後	2			○				1						
障害児指導法特論演習	1後	2				○			1						
行動障害学特論	1前	2			○				1						
行動障害学特論演習	1前	2				○			1						
重度・重複障害学特論	1後	2			○									兼1 集中	

<b>《特別支援教育に関する心理》</b>															
	障害児心理研究法特論	1 後	2			○								兼1	集中
	障害児生理心理学特論	1 前	2			○			1						
	障害児生理心理学特論演習	1 後	2				○		1						
	障害児心理診断法特論	1 前	2			○									
	障害児認知心理学特論	1 前	2			○			1						
<b>《特別支援教員に関する生理》</b>															
	障害児病理学特論	1 後	2			○			1						
	障害児医療学特論	1 前	2			○								兼1	集中
<b>《幼児教育》</b>															
	幼児教育学特論	1 前	2			○					1				
	幼児教育学特論演習	1 後	2				○				1				
<b>《幼児心理》</b>															
	幼児心理学特論	1 前	2			○			1						集中
	幼児心理学特論演習	1 後	2				○		1						
	幼児教育相談特論	1 前	2			○			1						
	幼児教育相談特論演習	1 後	2				○		1						
<b>《保育内容の研究》</b>															
	保育内容の研究特論	1 前	2			○			1						集中
	保育内容の研究特論演習	1 後	2				○								
	小計（53科目）	—	0	106	0	—	—	—	6	8	3	0	0	兼3	—
特別研究	教育実践研究Ⅰ	1 後	2			○			2						
	教育実践研究Ⅱ	2 前	2			○			2						
	課題研究	2 通年	4			○			3	5					
	小計（3科目）	—	4	4	0	—	—	—	5	5	0	0	0	0	—
合計（58科目）		—	8	110	0	—	—	—	6	8	3	0	0	兼3	—
学位又は称号	修士（教育学）		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係								



## 教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科 教科教育専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	学校教育研究Ⅰ(教育学系)	1前	2			○			2						オムニバス
	学校教育研究Ⅱ(教育心理学系)	1後	2			○			2						オムニバス
	小計(2科目)	—	4	0	0	—			4	0	0	0	0		—
専攻科目	《国語科教育》														
	国語科教育研究	1前	2			○			1						
	国語科教育特論Ⅰ	1後		2		○			1						
	国語科教育特論演習Ⅰ	1前		2			○		1						
	国語科教育特論Ⅱ	1前		2		○									
	国語科教育特論演習Ⅱ	1後		2			○								
	《国語学》														
	国語学特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	国語学特論演習Ⅰ	1後		2			○		1						
	国語学特論Ⅱ	1前		2		○			1						
	国語学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	《国文学》														
	国文学特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	国文学特論演習Ⅰ	1後		2			○		1						
	国文学特論Ⅱ	1前		2		○									
	国文学特論演習Ⅱ	1後		2			○								
	《書写》														
	書写教育特論	1前		2		○									
	書写教育特論演習	1後		2			○								
	《漢文学》														
漢文学特論	1前		2		○										
漢文学特論演習	1後		2			○									
国語教育実践研究Ⅰ	1後		2			○									
国語教育実践研究Ⅱ	2前		2			○									
小計(19科目)	—		2	36	0	—			4	0	0	0	0		—
専攻科目	《社会科教育》														
	社会科教育研究	1前	2			○			1						
	社会科教育特論Ⅰ	1後		2		○			1						
	社会科教育特論演習Ⅰ	1後		2			○		1						
	社会科教育特論Ⅱ	1前		2		○			1						
	社会科教育特論演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	《歴史学》														
	歴史学特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	歴史学特論演習Ⅰ	1後		2			○		1						
	歴史学特論Ⅱ	1前		2		○			1						
	歴史学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	《地理学》														
	地理学特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	地理学特論演習Ⅰ	1後		2			○		1						
	地理学特論Ⅱ	1前		2		○			1						
	地理学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	《政治学》														
	政治学特論	1前		2		○			1						
	政治学特論演習	1後		2			○		1						
	《法学》														
法学特論	1前		2		○				1						
法学特論演習	1後		2			○			1						
《社会学》															
社会学特論Ⅰ	1前		2		○										
社会学特論演習Ⅰ	1後		2			○									
社会学特論Ⅱ	1前		2		○				1						
社会学特論演習Ⅱ	1後		2			○			1						
ソーシャルワーク特論	1前		2		○				1						
ソーシャルワーク特論演習	1後		2			○			1						

	《 <b>経済学</b> 》																
	経済学特論 I	1 前		2		○											
	経済学特論演習 I	1 後		2			○										
	経済学特論 II	1 前		2		○			1								
	経済学特論演習 II	1 後		2			○		1								
	社会科教育実践研究 I	1 後		2			○										
	社会科教育実践研究 II	2 前		2			○										
	小計 (29科目)	—	2	56	0	—	—	—	8	3	0	0	0				—
	《 <b>数学科教育</b> 》																
	数学科教育研究	1 前	2			○				1							
	数学科教育特論 I	1 後		2		○				1							
	数学科教育特論演習 I	1 前		2			○			1							
	数学科教育特論 II	1 前		2		○			1								
	数学科教育特論演習 II	1 後		2			○		1								
	《 <b>代数学</b> 》																
	代数学特論 I	1 前		2		○			1								
	代数学特論演習 I	1 後		2			○		1								
	代数学特論 II	1 前		2		○			1								
	代数学特論演習 II	1 後		2			○		1								
	《 <b>幾何学</b> 》																
	幾何学特論 I	1 前		2		○											
	幾何学特論演習 I	1 後		2			○										
	幾何学特論 II	1 前		2		○			1								
	幾何学特論演習 II	1 後		2			○		1								
	《 <b>解析学</b> 》																
	解析学特論 I	1 前		2		○					1						
	解析学特論演習 I	1 後		2			○				1						
	解析学特論 II	1 前		2		○			1								
	解析学特論演習 II	1 後		2			○		1								
	数学教育実践研究 I	1 後		2			○										
	数学教育実践研究 II	2 前		2			○										
	小計 (19科目)	—	2	36	0	—	—	—	4	1	1	0	0				—
専攻科目	《 <b>理科教育</b> 》																
	理科教育研究	1 前	2			○				1							
	理科教育特論 I	1 前		2		○			1								
	理科教育特論演習 I	1 後		2			○		1								
	理科教育特論 II	1 前		2		○											
	理科教育特論演習 II	1 後		2			○										
	《 <b>物理学</b> 》																
	物理学特論 I	1 前		2		○			1								
	物理学特論演習 I	1 後		2			○		1								
	物理学特論 II	1 前		2		○			1								
	物理学特論演習 II	1 後		2			○		1								
	物理学特論 III	1 前		2		○				1							
	物理学特論演習 III	1 後		2			○			1							
	《 <b>化学</b> 》																
	化学特論 I	1 前		2		○				1							
	化学特論演習 I	1 後		2			○			1							
	化学特論 II	1 前		2		○											
	化学特論演習 II	1 後		2			○										
	化学特論 III	1 前		2		○											
	化学特論演習 III	1 後		2			○										
	《 <b>生物学</b> 》																
	生物学特論 I	1 前		2		○					1						
	生物学特論演習 I	1 後		2			○				1						
	生物学特論 II	1 前		2		○			1								
	生物学特論演習 II	1 後		2			○		1								
	生物学特論 III	1 前		2		○				1							
	生物学特論演習 III	1 後		2			○			1							
	《 <b>地学</b> 》																
	地学特論 I	1 前		2		○			1								
	地学特論演習 I	1 後		2			○		1								
	地学特論 II	1 前		2		○				1							
	地学特論演習 II	1 後		2			○			1							
	地学特論 III	1 前		2		○											
	地学特論演習 III	1 後		2			○										
	理科教育実践研究 I	1 後		2			○										

	理科教育実践研究Ⅱ	2前		2		○													
	小計(31科目)	—	2	60	0	—			5	4	1	0	0					—	
音楽教育専修	《音楽科教育》																		
	音楽科教育研究	1前	2			○			1										
	音楽科教育特論Ⅰ	1前		2		○													
	音楽科教育特論演習Ⅰ	1後		2			○												
	音楽科教育特論Ⅱ	1前		2		○													
	音楽科教育特論演習Ⅱ	1後		2			○												
	《声楽》																		
	声楽特論	1前		2		○					1								
	声楽特論演習	1後		2			○				1								
	《器楽》																		
	器楽特論	1前		2		○			1										
	器楽特論演習Ⅰ	1後		2			○		1										
	器楽特論演習Ⅱ	1後		2			○				1								
	《作曲・指揮法》																		
	作曲法特論	1前		2		○			1										
	作曲法特論演習	1後		2			○		1										
《音楽学》																			
音楽学特論	1前		2		○			1											
音楽学特論演習	1後		2			○		1											
音楽教育実践研究Ⅰ	1後		2			○													
音楽教育実践研究Ⅱ	2前		2			○													
小計(16科目)	—	2	30	0	—			3	2	0	0	0						—	
専攻科目 美術教育専修	《美術科教育》																		
	美術科教育研究	1前	2			○					1								
	美術科教育特論Ⅰ	1前		2		○					1								
	美術科教育特論演習Ⅰ	1後		2			○				1								
	美術科教育特論Ⅱ	1前		2		○													
	美術科教育特論演習Ⅱ	1後		2			○		1										
	《絵画》																		
	絵画特論	1前		2		○			1										
	絵画特論演習Ⅰ	1後		2			○		1										
	絵画特論演習Ⅱ	1前		2			○		1										
	《彫刻》																		
	彫刻特論	1後		2		○			1										
	彫刻特論演習Ⅰ	1前		2			○		1										
	彫刻特論演習Ⅱ	1前		2			○		1										
	《デザイン》																		
	デザイン特論	1前		2		○					1								
	デザイン特論演習	1後		2			○				1								
	《工芸》																		
	工芸特論	1前		2		○			1										
工芸特論演習	1後		2			○		1											
《美術理論・美術史》																			
美術理論・美術史特論	1前		2		○			1											
美術理論・美術史特論演習	1後		2			○		1											
美術教育実践研究Ⅰ	1後		2			○													
美術教育実践研究Ⅱ	2前		2			○													
小計(19科目)	—	2	36	0	—			5	2	0	0	0						—	
保健体育専修	《保健体育科教育》																		
	保健体育科教育研究	1前	2			○			1										
	保健体育科教育特論Ⅰ	1前		2		○						1							
	保健体育科教育特論演習Ⅰ	1後		2			○					1							
	保健体育科教育特論Ⅱ	1前		2		○													
	保健体育科教育特論演習Ⅱ	1後		2			○		1										
	《体育学》																		
	体育学特論Ⅰ	1前		2		○			1										
	体育学特論演習Ⅰ	1後		2			○		1										
	体育学特論Ⅱ	1前		2		○			1										
	体育学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1										
	体育学特論Ⅲ	1前		2		○					1								
	体育学特論演習Ⅲ	1後		2			○				1								
	体育学特論Ⅳ	1前		2		○							1						
	体育学特論演習Ⅳ	1後		2			○						1						
《運動学》																			
運動学特論Ⅰ	1前		2		○			1											

	運動学特論演習Ⅰ	1後		2			○	○		1							
	運動学特論Ⅱ	1前		2			○			1							
	運動学特論演習Ⅱ	1後		2				○		1							
	運動学特論Ⅲ	1前		2			○			1							
	運動学特論演習Ⅲ	1後		2				○		1							
	運動学特論Ⅳ	1前		2			○				1						
	運動学特論演習Ⅳ	1後		2				○			1						
	《学校保健》																
	学校保健学特論	1前		2			○			1							
	学校保健学特論演習	1後		2				○		1							
	保健体育教育実践研究Ⅰ	1後		2				○									
	保健体育教育実践研究Ⅱ	2前		2				○									
	小計(25科目)	—	2	48	0					7	2	2	0	0			—
専攻科目	《技術科教育》																
	技術科教育研究	1前	2				○			1							
	技術科教育特論Ⅰ	1前		2			○			1							
	技術科教育特論演習Ⅰ	1後		2				○									
	技術科教育特論Ⅱ	1前		2			○				1						
	技術科教育特論演習Ⅱ	1後		2				○			1						
	情報技術学特論Ⅰ	1前		2			○			1							
	情報技術学特論演習Ⅰ	1後		2				○		1							
	情報技術学特論Ⅱ	1前		2			○			1							
	情報技術学特論演習Ⅱ	1後		2				○		1							
	《電気》																
	電気技術学特論Ⅰ	1前		2			○			1							
	電気技術学特論演習Ⅰ	1後		2				○		1							
	電気技術学特論Ⅱ	1前		2			○										
	電気技術学特論演習Ⅱ	1後		2				○									
	《機械》																
	機械技術学特論Ⅰ	1前		2			○										
	機械技術学特論演習Ⅰ	1後		2				○									
	機械技術学特論Ⅱ	1前		2			○										
	機械技術学特論演習Ⅱ	1後		2				○									
技術教育実践研究Ⅰ	1後		2				○										
技術教育実践研究Ⅱ	2前		2				○										
小計(19科目)	—	2	36	0						4	1	0	0	0			—
家政教育専修	《家庭科教育》																
	家庭科教育研究	1前	2				○				2						
	家庭科教育特論Ⅰ	1後		2			○				1						
	家庭科教育特論演習Ⅰ	1後		2				○			1						
	家庭科教育特論Ⅱ	1後		2			○				1						
	家庭科教育特論演習Ⅱ	1後		2				○			1						
	《食物学》																
	食物学特論	1前		2			○					1					
	食物学特論演習	1後		2				○				1					
	《被服学》																
	被服学特論	1前		2			○			1							
	被服学特論演習	1後		2				○		1							
	《住居学》																
	住居学特論	1前		2			○				1						
	住居学特論演習	1後		2				○			1						
	《保育学》																
	保育学特論	1前		2			○					1					
保育学特論演習	1後		2				○				1						
《家政一般》																	
家庭経営特論	1前		2			○			1								
家庭経営特論演習	1後		2				○		1								
家政教育実践研究Ⅰ	1後		2				○										
家政教育実践研究Ⅱ	2前		2				○										
小計(17科目)	—	2	32	0						2	3	2	0	0			—
英語科教育	《英語科教育》																
	英語科教育研究	1前	2				○				1						
	英語科教育特論Ⅰ	1前		2			○				1						
	英語科教育特論演習Ⅰ	1後		2				○			1						
	英語科教育特論Ⅱ	1後		2			○			1							
	英語科教育特論演習Ⅱ	1後		2				○			1						
	英語科教育特論Ⅲ	1前		2			○			1							



## 教育課程等の概要 (事前伺い)

## (人間発達科学部 発達教育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目	哲学のすすめ	1・2 通		2		○									
	人間と倫理	1・2 通		2		○									
	こころの科学	1・2 通		2		○			1	2	1				
	現代と教育	1・2 通		2		○			1	3	1				
	日本の歴史と社会	1・2 通		2		○			1						
	東洋の歴史と社会	1・2 通		2		○									
	西洋の歴史と社会	1・2 通		2		○			1						
	日本文学	1・2 通		2		○									
	外国文学	1・2 通		2		○									
	言語と文化	1・2 通		2		○			1						
	音楽	1・2 通		2		○			2	1					
	美術	1・2 通		2		○				1					
	社会科学の方法と理論	1・2 通		2		○									
	現代社会論	1・2 通		2		○									
	日本国憲法	1・2 通		2		○									
	国家と市民	1・2 通		2		○									
	経済生活と法	1・2 通		2		○									
	市民生活と法	1・2 通		2		○									
	経済・経営データを読む	1・2 通		2		○									
	企業と仕事	1・2 通		2		○									
	世界経済の過去と現在	1・2 通		2		○									
	日本の経済と産業	1・2 通		2		○									
	日本の企業経営	1・2 通		2		○									
	地域の経済と社会・文化	1・2 通		2		○			1						
	地球と環境	1・2 通		2		○									
	生命の世界	1・2 通		2		○					1				
	宇宙の構造	1・2 通		2		○									
	化学物質の世界	1・2 通		2		○									
	物理の世界	1・2 通		2		○			1						
	量子の世界	1・2 通		2		○									
	自然と情報の数理	1・2 通		2		○									
	社会と情報の数理	1・2 通		2		○									
	技術の世界	1・2 通		2		○									
	材料の科学	1・2 通		2		○									
	生活の科学	1・2 通		2		○			1						
	コンピュータの話	1・2 通		2		○									
	教養原論演習	1・2 通		4			○								
	環境	1・2 通		2		○				1					
	生と死	1・2 通		2		○									
	ジェンダー (性)	1・2 通		2		○									
	技術と社会	1・2 通		2		○									
	現代文化	1・2 通		2		○									
人権と福祉	1・2 通		2		○										
環日本海	1・2 通		2		○										
科学と社会	1・2 通		2		○										
現代の世界 (時事的問題)	1・2 通		2		○										
トータルコミュニケーション	1・2 通		2		○										
富山学ーわたしの富山	1・2 通		2		○										
心(こころ),身体(からだ),そして生命(いのち)	1・2 通		2		○										
感性をはぐくむ	1・2 通		2		○										

	総合科目特殊講義	1・2 通		2		○								
	日本事情	1・2 通		6		○								
	小計 (52科目)	—	0	110	0	—			10	8	2			
共通基礎科目	英語A	1 通		4		○			4	12				
	英語B	2 通			4	○								
	ドイツ語A	1 通		4		○								
	ドイツ語B	2 通			4	○								
	フランス語A	1 通		4		○								
	フランス語B	2 通			4	○								
	ロシア語A	1 通		4		○								
	ロシア語B	2 通			4	○								
	中国語A	1 通		4		○								
	中国語B	2 通			4	○								
	朝鮮語A	1 通		4		○								
	朝鮮語B	2 通			4	○								
	ラテン語B	2 通			2	○								
	日本語A	1 通		4		○								
	日本語B	2 通			4	○								
	健康・スポーツ論	1・2 通		3		○			5		2			
	健康・スポーツ演習	2 通		2			○		1					
	健康スポーツ	1・2 通		4				○	17	6	6			
	情報処理	1・2 通		2			○		2					
言語表現	1・2 通		2			○		1						
小計 (20科目)	—	0	41	30	—			11	5	2				
専門科目	基礎ゼミナール	1 前	2			○			2					
	発達科学概論	1 前	2			○				1				
	インスタラクショナルデザイン	3 前		2		○			3					
	プロジェクトマネジメント	3 通		2			○			1				
	総合演習	3 通		2			○			1				
	幼児教育実習	2・3 通		7				○	1					
	初等教育実習	2・3 通		7				○	1					
	中等教育実習 (中)	3・4 通		7				○	1					
	中等教育実習 (高)	4 通		3				○	1					
	特別支援学校教育実習	4 通		3				○	1					
	保育実習 I	2 通		5				○	1					
	保育実習 II	3 通		2				○	1					
	保育実習 III	3 通		2				○	1					
	インターンシップ	3 通		2				○		1				
	ボランティア体験	3 通		2				○	1					
	社会科・地歴科教育法 I	2 後		2		○			1					
	社会科・地歴科教育法 II	3 前		2		○			1					
	社会科・公民科教育法 I	2 後		2		○			1					
	社会科・公民科教育法 II	3 前		2		○			1					
	数学科教育法 I	2 前		2		○				1				
	数学科教育法 II	2 後		2		○				1				
	数学科教育法 III	3 前		2		○				1				
	数学科教育法 IV	3 前		2		○					1			
	理科教法 I	2 前		2		○					1			
	理科教法 II	2 後		2		○			1					
	理科教法 III	3 前		2		○			1					
	理科教法 IV	3 前		2		○					1			
	保健体育科教育法 I	2 前		2		○			1					
	保健体育科教育法 II	2 後		2		○				1				
	保健体育科教育法 III	3 前		2		○			1					
	保健体育科教育法 IV	3 前		2		○					1			
	家庭科教育法 I	2 前		2		○				1				
	家庭科教育法 II	2 後		2		○				1				
	家庭科教育法 III	3 前		2		○				1				
家庭科教育法 IV	3 前		2		○					1				
情報科教育法 I	3 前		2		○			1						
情報科教育法 II	3 後		2		○			1						
英語科教育法 I	2 前		2		○					1				

英語科教育法Ⅱ	2 後	2	○						1				
英語科教育法Ⅲ	3 前	2	○						1				
英語科教育法Ⅳ	3 前	2	○										
教育心理学	1 前	2	○					1					
子どもとのふれあい体験	1 通	2	○					7	4	4			
教員実地研究	4 前	2	○					1					兼3
生徒指導論	1 後	2	○								1		
心理学研究法	1 後	2	○					1					
心理学実験法	2 前	2				○			1				
心理学測定法	2 後	2				○			1				
心理統計学	2 前	2	○					1					
教育心理学実験Ⅰ	2 後	1				○		1	2				
教育心理学実験Ⅱ	3 前	1				○		2	2	2			
教育心理学演習Ⅰ	2 前	2			○			1	2				
教育心理学演習Ⅱ	3 後	2			○			2	2	2			
知覚心理学	3 前	2	○						1				
認知心理学	2 後	2	○					1					
学習心理学	2 後	2	○					1					
情報処理心理学	2 後	2	○					1					
教育工学	3 前	2	○					1	1				
心理学教育論	2 後	2	○					1					
発達心理学	1 後	2	○						1				
教育相談	1 前	2	○					1		1			
発達臨床心理学	2 後	2	○								1		
児童心理学	2 前	2	○						1				
青年心理学	2 後	2	○						1				
生涯発達心理学	2 前	2	○								1		
臨床心理学	2 後	2	○								1		
性格心理学	2 前	2	○					1					
臨床心理アセスメントⅠ	3 前	2	○					1					
臨床心理アセスメントⅡ	3 後	2	○								1		
カウンセリング	2 前	2			○						1		
グループ・カウンセリング	2 後	2			○						1		
臨床心理実習	3 通	2				○					2		
認知行動療法	3 前	2	○								1		
健康心理学	2 前	2	○								1		
学級集団心理学	1 後	2	○						1				
社会心理学	2 前	2	○						1				
心理学的人間関係論	2 前	2	○										兼1
社会心理学調査法	2 前	2	○					1					
応用心理学	2 後	2	○						1				
コミュニティ心理学	2 前	2	○								1		
マスメディアの心理学	2 前	2	○								1		
心理学特別講義	4 前	2	○					1					
国語（書写を含む。）	1 後	2	○					1					
社会	2 前	2	○					1					
算数	2 前	2	○								1		
理科	4 前	2	○					1	1				
生活	2 前	2	○						1				
音楽	2 前	2	○					1	1				
図画工作	2 後	2	○					1	1				
家庭	3 後	2	○					1					
体育	1 後	2	○							1			
教職と教育	1 前	2	○					2					
教育の思想と歴史	1 後	2	○					2					
教育哲学	2 前	2	○					1					
教育史	2 後	2	○					1					
学校の制度と経営	2 後	2	○							2			
教育法規	2 後	2	○						1				
教育社会学	2 前	2	○						1				
学校文化論	2 後	2	○							1			
地域教材研究(富山学)	1 後	2	○					1	1				



専 門 科 目	教育課程と特別活動	2 前	2	○					1			
	国語科教育論	2 前	2	○				1				
	社会科教育論	2 後	2	○				2				
	算数科教育論	2 後	2	○					1			
	理科教育論	3 前	2	○				2				
	生活科教育論	2 後	2	○				2		2		
	音楽科教育論	2 後	2	○					1			
	図画工作科教育論	3 前	2	○					1			
	家庭科教育論	2 後	2	○					1			
	体育科教育論	2 前	2	○				1				
	道徳教育論	3 前	2	○				2				
	学習指導	3 前	2	○						1		
	学級担任論	1 通	2	○				5	4	1		
	教材開発論	2 前	2	○						1		
	英語科教育論	3 後	2	○				1		1		
	総合学習教育論	3 前	2	○				1				
	異校種間交流活動論	2 後	2	○				1				
	地域交流活動論	3 後	2	○						1		
	国際交流活動論	3 後	2	○				1				
	自然体験活動論	3 後	2	○				1				
	教育臨床演習	2 前	1		○					1		
	教育実践論演習	2 後	1		○				1			
	学校経営論演習	2 前	1		○					2		
	学習指導論演習	2 後	1		○					1		
	子ども論演習	2 後	1		○				1			
	学校教育ゼミナールⅠ	3 前	1		○					1		
	学校教育ゼミナールⅡ	2 後	1		○				1			
	特別支援学概論	1 前	2		○				1	2		
	障害児教育総論	1 前	2		○				1	2		
	特別支援教育学Ⅰ	1 後	2		○					1		
	特別支援教育学Ⅱ	2 前	2		○					1		
	知的障害児の心理Ⅰ	2 前	2		○				1			
	知的障害児の心理Ⅱ	4 前	2		○				1			
	知的障害児の生理・病理Ⅰ	2 後	2		○				1			
	知的障害児の生理・病理Ⅱ	4 後	2		○				1			
	肢体不自由児の心理・生理・病理	3 前	2		○				1			
	病弱児の心理・生理・病理	3 後	2		○				1			
	知的障害教育総論	3 後	2		○					1		
	知的障害児の教育Ⅰ	2 後	2		○					1		
	知的障害児の教育Ⅱ	3 前	2		○					1		
	知的障害児の教育診断臨床Ⅰ	3 前	2			○			1	1		
	知的障害児の教育診断臨床Ⅱ	3 前	2			○				1		
	知的障害児の教育診断臨床Ⅲ	3 後	2			○				1		
	肢体不自由児の教育	3 前	2		○							
	病弱児の教育	3 後	2		○							
発達精神保健学	2 後	2		○								
特別支援教育研究法	3 前	2		○				1	2			
軽度発達障害児教育総論	2 後	2		○					1			
重複障害児教育総論	3 後	2		○								
幼児教育課程論	3 後	2		○						1		
保育内容総論	2 前	2		○						1		
保育内容(健康)	1 後	2		○				1		1		
保育内容(人間関係)	1 後	2		○				1				
保育内容(環境)	3 前	2		○				1		1		
保育内容(言葉)	3 前	2		○						1		
保育内容(造形表現)	2 後	2		○						1		
保育内容(音楽表現)	3 前	2		○					1			
保育の指導法	2 前	2		○						1		
基礎技能Ⅰ(ソルフェージュ)	2 前	1			○				1			
基礎技能Ⅱ(ピアノ奏法)	2 後	1			○				1			

兼1  
兼1  
兼1  
  
兼1

専門科目	幼児理解と教育相談	1 後	2	○		1						
	医学概論	3 前	2	○		1						
	心理学	3 後	2	○		1						
	社会学	1 後	2	○			1					
	社会福祉概論 I	1 後	2	○			1					
	社会福祉概論 II	2 前	2	○			1					
	社会福祉調査法	2 後	2	○			1					
	社会福祉援助技術論 I	1 後	2	○			1					
	社会福祉援助技術論 II	2 前	2	○			1					
	ソーシャルワーク I	1 後	2			○			1			
	ソーシャルワーク II	2 前	2			○	1					
	ソーシャルワーク III	2 後	2			○		1				
	ソーシャルワーク IV	3 前	2			○		1				
	地域福祉論 I	2 後	2	○				1				
	地域福祉論 II	3 前	2	○				1				
	福祉行財政論	1 後	1	○				1				
	福祉計画論	2 前	1	○				1				
	福祉管理運営論	2 前	2	○				1				
	社会保障論 I	2 前	2	○								兼1
	社会保障論 II	2 後	2	○								兼1
	高齢者福祉論	2 後	2	○								兼1
	介護概論	3 前	2	○								兼1
	障害者福祉論	3 前	2	○				1				
	児童福祉論	2 前	2	○					1			
	公的扶助論	4 前	2	○								兼1
	保健医療論	2 後	2	○				1				
	就労支援論	3 後	1	○				1				
	権利擁護論	2 後	1	○								兼1
	成年後見制度論	2 後	1	○								兼1
	司法福祉論	3 前	1	○				1				
	ソーシャルワーク演習 I	2 後	2		○				1			
	ソーシャルワーク演習 II	3 前	4		○			1				
	ソーシャルワーク演習 III	4 後	4		○			1				
	ソーシャルワーク実習指導	3 前	2	○				1				
	ソーシャルワーク実習	3 通	4			○		1				
	保育原理 I	2 後	2	○					1			
	保育原理 II	2 後	2	○					1			
	養護原理	2 前	2	○					1			
	養護内容演習	2 後	2			○		1				
	臨床発達心理学	2 前	2	○			1					
	精神保健	1 後	2	○			1					
小児栄養演習 I	1 後	2		○				1				
小児栄養演習 II	3 後	2		○				1				
小児保健 I	1 後	2	○								兼2	
小児保健 II	2 後	2	○					1				
小児保健実習	3 後	2			○	1						
家族援助論	2 後	2	○					1				
障害児保育	3 後	2	○				1					
乳児保育	2 前	2	○					1				
社会福祉援助技術演習	3 前	4		○			1	1				
発達福祉統計学	3 前	2	○			1						
特別研究	4 通	6				1						
特別実践研究	4 通	6				1						
小計 (213科目)	—	4	441	0	—	17	21	7			兼13	
合計 (285科目)	—	4	592	30	—	29	26	8			兼13	
学位又は称号	学士 (教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係						

## 教育課程等の概要(事前伺い)

## (人間発達科学部 人間環境システム学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目	哲学のすすめ	1・2通		2		○									
	人間と倫理	1・2通		2		○									
	こころの科学	1・2通		2		○			1	2	1				
	現代と教育	1・2通		2		○			1	3	1				
	日本の歴史と社会	1・2通		2		○			1						
	東洋の歴史と社会	1・2通		2		○									
	西洋の歴史と社会	1・2通		2		○			1						
	日本文学	1・2通		2		○									
	外国文学	1・2通		2		○									
	言語と文化	1・2通		2		○			1						
	音楽	1・2通		2		○			2	1					
	美術	1・2通		2		○				1					
	社会科学の方法と理論	1・2通		2		○									
	現代社会論	1・2通		2		○									
	日本国憲法	1・2通		2		○									
	国家と市民	1・2通		2		○									
	経済生活と法	1・2通		2		○									
	市民生活と法	1・2通		2		○									
	経済・経営データを読む	1・2通		2		○									
	企業と仕事	1・2通		2		○									
	世界経済の過去と現在	1・2通		2		○									
	日本の経済と産業	1・2通		2		○									
	日本の企業経営	1・2通		2		○									
	地域の経済と社会・文化	1・2通		2		○			1						
	地球と環境	1・2通		2		○									
	生命の世界	1・2通		2		○					1				
	宇宙の構造	1・2通		2		○									
	化学物質の世界	1・2通		2		○									
	物理の世界	1・2通		2		○			1						
	量子の世界	1・2通		2		○									
	自然と情報の数理	1・2通		2		○									
	社会と情報の数理	1・2通		2		○									
	技術の世界	1・2通		2		○									
	材料の科学	1・2通		2		○									
	生活の科学	1・2通		2		○			1						
	コンピュータの話	1・2通		2		○									
	教養原論演習	1・2通		4				○							
	環境	1・2通		2		○				1					
	生と死	1・2通		2		○									
	ジェンダー(性)	1・2通		2		○									
	技術と社会	1・2通		2		○									
	現代文化	1・2通		2		○									
	人権と福祉	1・2通		2		○									
	環日本海	1・2通		2		○									
	科学と社会	1・2通		2		○									
	現代の世界(時事的問題)	1・2通		2		○									
	トータルコミュニケーション	1・2通		2		○									
	富山学ーわたしの富山	1・2通		2		○									
	心(こころ),身体(からだ),そして生命(いのち)	1・2通		2		○									
	感性をはぐくむ	1・2通		2		○									
	総合科目特殊講義	1・2通		2		○									
	日本事情	1・2通		6		○									
小計(52科目)		—	0	110	0	—			10	8	2				

共通基礎科目	英語A	1 通	4			○		4	12				
	英語B	2 通		4		○							
	ドイツ語A	1 通	4			○							
	ドイツ語B	2 通		4		○							
	フランス語A	1 通	4			○							
	フランス語B	2 通		4		○							
	ロシア語A	1 通	4			○							
	ロシア語B	2 通		4		○							
	中国語A	1 通	4			○							
	中国語B	2 通		4		○							
	朝鮮語A	1 通	4			○							
	朝鮮語B	2 通		4		○							
	ラテン語B	2 通		2		○							
	日本語A	1 通	4			○							
	日本語B	2 通		4		○							
	健康・スポーツ論	1・2 通	3		○			5		2			
	健康・スポーツ演習	2 通	2			○		1					
	健康スポーツ	1・2 通	4				○	17	6	6			
	情報処理	1・2 通	2			○		2					
	言語表現	1・2 通	2			○		1					
小計 (20科目)	—	0	41	30	—		11	5	2				
専門科目	基礎ゼミナール	1 前	2			○		2					
	発達科学概論	1 前	2			○			1				
	インストラクショナルデザイン	3 前	2			○		3					
	プロジェクトマネージメント	3 通	2				○		1				
	総合演習	3 通	2				○		1				
	幼児教育実習	2・3 通	7					1					
	初等教育実習	2・3 通	7					1					
	中等教育実習 (中)	3・4 通	7					1					
	中等教育実習 (高)	4 通	3					1					
	特別支援学校教育実習	4 通	3					1					
	保育実習 I	2 通	5					1					
	保育実習 II	3 通	2					1					
	保育実習 III	3 通	2					1					
	インターンシップ	3 通	2						1				
	ボランティア体験	3 通	2					1					
	社会科・地歴科教育法 I	2 後	2			○		1					
	社会科・地歴科教育法 II	3 前	2			○		1					
	社会科・公民科教育法 I	2 後	2			○		1					
	社会科・公民科教育法 II	3 前	2			○		1					
	数学科教育法 I	2 前	2			○			1				
	数学科教育法 II	2 後	2			○			1				
	数学科教育法 III	3 前	2			○			1				
	数学科教育法 IV	3 前	2			○				1			
	理科教育法 I	2 前	2			○			1				
	理科教育法 II	2 後	2			○		1					
	理科教育法 III	3 前	2			○		1					
	理科教育法 IV	3 前	2			○				1			
	保健体育科教育法 I	2 前	2			○		1					
	保健体育科教育法 II	2 後	2			○				1			
	保健体育科教育法 III	3 前	2			○		1					
	保健体育科教育法 IV	3 前	2			○					1		
	家庭科教育法 I	2 前	2			○				1			
	家庭科教育法 II	2 後	2			○				1			
	家庭科教育法 III	3 前	2			○				1			
	家庭科教育法 IV	3 前	2			○					1		
	情報科教育法 I	3 前	2			○		1					
	情報科教育法 II	3 後	2			○		1					
	英語科教育法 I	2 前	2			○				1			
	英語科教育法 II	2 後	2			○				1			
	英語科教育法 III	3 前	2			○				1			
英語科教育法 IV	3 前	2			○					1			
地域スポーツ概論	2 前	2			○		1						

専 門 科 目	地域と健康	3 後	2	○		1							
	社会調査法	2 後	2	○			1						
	エイジング論	3 前	2	○		2							
	アメニティ科学	2 前	2	○		1	1						
	環境とリサイクル	1 後	2	○				1					
	都市減災論	1 前	2	○		1							
	平和学	2 後	2	○									兼1
	行動としての英語コミュニケーション	2 後	2	○				1					
	国際語としての英語	2 前	2	○									兼1
	ネットワークリテラシー	1 前	2	○					1				
	電脳社会論	2 前	2	○			1						
	組織マネジメント論	3 前	2	○			1						
	スポーツ文化論	2 前	2	○			1						
	スポーツ心理学	2 後	2	○						1			
	スポーツ社会学	2 後	2	○					1				
	スポーツ史	2 後	2	○			1						
	バイオメカニクス	2 前	2	○			1						
	運動生理学	1 後	2	○			1						
	解剖学	1 後	2	○			1						
	スポーツ栄養学	3 後	2	○							1		
	スポーツ医学	2 前	2	○			1						
	スポーツと発育発達	3 前	2	○							1		
	学校と健康	3 後	2	○			1						
	スポーツ指導論	3 後	2	○					1				
	スポーツ運動学	2 後	2	○					1				
	身体コミュニケーション	2 前	2	○			1						
	スポーツマネジメント	3 前	2	○			1						
	スポーツ審判論	3 後	2	○			1						
	トレーニング実験実習	2 後	1			○	1						
	スポーツ技術・戦術論	2 後	2	○			1						
	スポーツ動作分析法	2 後	2	○			1						
	メンタルマネジメント	3 前	2	○							1		
	救急法	2 前	2	○			1						
	地域スポーツ演習	3 通	2		○		1						
	施設実習	3 後	3			○	1						
	野外活動論	2 前	2	○							1		
	夏季野外活動実習	1・2 前	2			○	1						
	冬季野外活動実習	1・2 後	2			○	1						
	ダンス	1・2 後	2			○					1		
	体操	1・2 後	2			○				1			
	器械運動	1・2・3 前	3			○				1			
	陸上競技	1・2・3 前	3			○					1		
	バレーボール	1・2・3 前	3			○	1						
	バスケットボール	2・3・4 後	3			○	1						
	サッカー	2・3・4 前	3			○	1						
	ソフトボール	2・3 前	2			○			1				
	テニス	1・2・3 前	3			○			1				
	バドミントン	1・2 後	2			○	1						
	ハンドボール	1・2 後	2			○	1						
	武道	1・2・3 前	3			○	1						
	水泳	1・2・3 前	3			○	1						
	ゴルフ	1・2・3 前	3			○	1	1					
	地域スポーツゼミナール	3 通	4			○	4	2	2				
地域スポーツ特別講義	4 通	6	○							1			
環境科学技術実験	1 後	1			○	2	2	1					
環境とエネルギー	1 後	2	○			1							
生活の中の物理	2 前	2	○			1							
環境測定と誤差	2 後	2	○			1							
熱とエントロピー	3 前	2	○			1							
環境の物理的諸問題	2 後	2	○			1							
基礎物理学実験	2 前	1			○	1							
環境物理学実験	3 後	1			○	1							
科学技術巡検	3 前	1			○	1	1						

専門科目	現代化学技術論	3 前	2	○			1			
	化学物質の機能と環境	1 後	2	○			1			
	物性化学概論	2 前	2	○			1			
	生活環境化学	2 後	2	○			1			
	環境化学実験	3 後	1			○	1			
	環境化学	2 前	2	○			1			
	化学計測学	3 前	2	○			1			
	化学計測システム設計	3 後	2	○			1			
	基礎化学実験	2 前	1			○		1		
	化学計測実験	3 後	1			○	1			
	科学技術社会論	1 後	2	○				1		
	環境コミュニケーション論	3 後	2	○				1		
	科学ジャーナリズム論	2 前	2	○				1		
	科学ジャーナリズム演習	3 後	2		○			1		
	基礎生物学	1 後	2	○					1	
	生命科学	2 後	2	○					1	
	環境社会生物学	1 前	2	○					1	
	環境生物学巡検	3 前	1			○			1	
	基礎生命科学実験	2 前	1			○			1	
	生命科学実験	3 前	1			○			1	
	地球表層変動学	1 後	2	○			1			
	地球材料学	2 後	2	○			1			
	全地球史	2 前	2	○			1			
	地球地域学巡検	3 前	1			○	1			
	基礎地球学実験	2 後	1			○	1			
	地球地域学実験	3 前	1			○	1			
	栽培技術論	2 前	2	○					1	
	生活電気機械概論	2 後	2	○			2	1		
	生活メディア論	2 前	2	○			1			
	生産技術実習	3 後	2			○			1	
	栽培技術実習	3 前	2			○	1			
	住環境論	2 前	2	○				1		
	睡眠学	1 前	2	○			1			
	ホームマネージメント	2 後	2	○			1			
	住空間設計実習	3 前	2			○	1	1		
	生活環境デザイン	2 後	2	○			1			
	カラーコーディネート論	1 後	2	○				1		
	生活工学	2 後	2	○				1		
	都市景観論	2 後	2	○				1		
	衣環境論	3 後	2	○			1			
	テキスタイル性能論	1 後	2	○			1			
	感性製品設計論	2 後	2	○			1			
	衣環境デザイン実習	2 前	2			○	1			
	衣環境論実験	3 後	2			○	1			
	ヒトの動きの力学的解析	2 前	2	○			1			
	ヒトの動きの機能解剖学	1 後	2	○			1			
	身体の形態と機能の測定	3 後	2	○			1			
	筋機能向上プログラミング	3 前	2	○			1			
	ライフステージと運動	1 後	2	○			1			
	健康向上プログラミング	3 後	2	○			1			
環境と身体運動	4 前	2	○			1				
身体運動学演習	2 前	2		○		2				
栄養学	2 後	2	○					1		
食環境論	3 後	2	○					1		
調理実習	2 後	1			○			1		
子育てネットワーク論	3 後	2	○					1		
家庭生活支援実習	2 前	1			○			1		
家族関係学	2 前	2	○			1				
地球市民社会論	2 前	2	○						兼1	
国際政治学	3 前	2	○						兼1	
人間安全保障論	3 後	2	○						兼1	
地球社会学演習	3 後	2		○					兼1	
世界環境地理学	2 前	2	○			1				

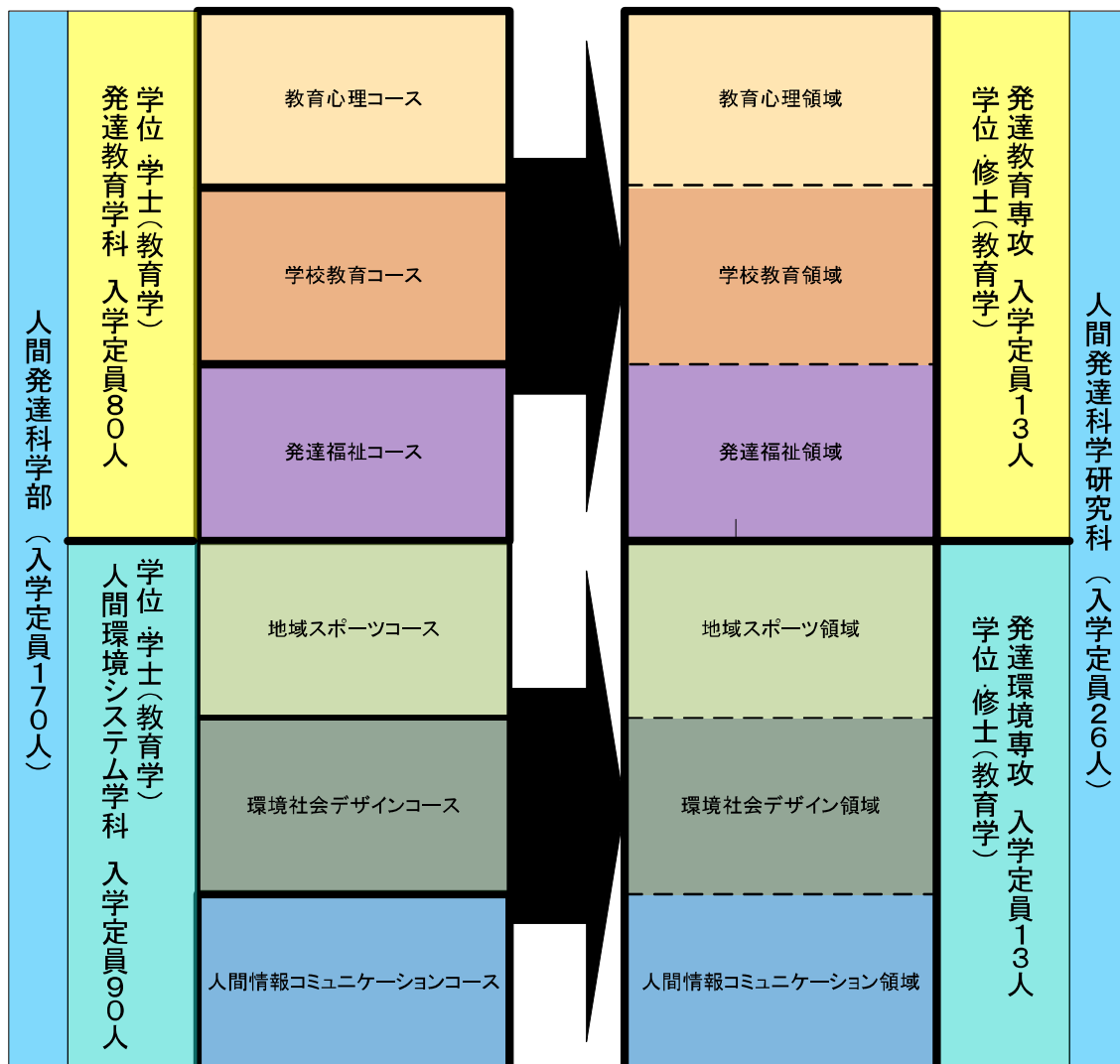


専 門 科 目	アメリカ文学	3 前	2	○				1					
	イギリス文学	2 後	2	○				1					
	現代アメリカ文学	3 後	2	○				1					
	現代イギリス文学	2 後	2	○				1					
	文学とコミュニケーション	2 前	2	○				1					
	英米文学史	2 前	2	○				1					
	翻訳・創作論	2 前	2	○				1					
	コンピュータ概論	1 後	2	○				1					
	アルゴリズムとデータ構造	2 後	2	○						1			
	基本プログラミング	1 後	2	○				1					
	基本プログラミング演習	2 前	2		○			1					
	応用プログラミング	2 前	2		○							兼1	
	応用プログラミング演習	2 後	2		○							兼1	
	数理システム概論	1 後	2	○						1			
	線形システム概論	1 後	2	○				1					
	情報通信ネットワーク管理	3 前	2	○					1				
	情報通信ネットワーク演習	3 後	2		○				1				
	情報代数学	2 前	2	○								兼1	
	情報幾何学	2 後	2	○						1			
	情報幾何学演習	3 前	2		○							兼1	
	応用数学	3 前	2	○						1			
	数理解析	2 前	2	○						1			
	情報数学	2 前	2	○				1					
	情報数学演習	3 前	2		○					1			
	モデル化とシミュレーション	3 前	2	○						1			
	基本統計	2 後	2	○						1			
	応用統計	3 前	2	○				1					
	確率論	3 前	2	○								兼1	
情報集中演習	1 後	2		○				1					
教育工学概論	3 前	2	○				1						
教育工学演習	3 後	2		○				1					
情報教育概論	2 前	2	○				1						
情報教育演習	2 後	2		○			1						
ヒューマンインタフェース概論	1 後	2	○				1						
ヒューマンインタフェース演習	2 後	2		○				1					
コンテンツデザイン概論	2 前	2	○					1					
コンテンツデザイン演習	2 後	2		○				1					
テクニカル・ライティング	1 後	2	○				1						
知的財産権処理	2 後	2	○								兼1		
メディア史	2 前	2	○				1						
メディア芸術論	2 後	2	○				1						
メディアデータ編集法	1 後	2	○				1						
マルチメディアシステム	3 前	2	○					1					
マルチメディアシステム演習	3 前	2		○				1					
メディアコミュニケーション概論	1 後	2	○				1						
メディアコミュニケーション演習	2 前	2		○			1	1					
音響メディア概論	2 後	2	○				1						
音響メディア演習	3 前	2		○			1						
コンピュータ音楽概論	2 前	2	○				1						
コンピュータ音楽演習	2 後	2		○			1						
コンピュータ音楽編曲法	3 前	2	○				1						
情報と職業	3 後	2	○				1						
ゼミナール	3 前	4		○			1						
国際コミュニケーション学特別講義	3 後	4	○				1						
情報コミュニケーション学特別講義	3 前	4	○				1						
特別研究	4 通	6				○	1						
小計 (287科目)	—	10	594	0	—		29	12	6		兼12		
合計 (359科目)	—	10	745	30	—		32	18	7		兼12		
学位又は称号	学士 (教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係							



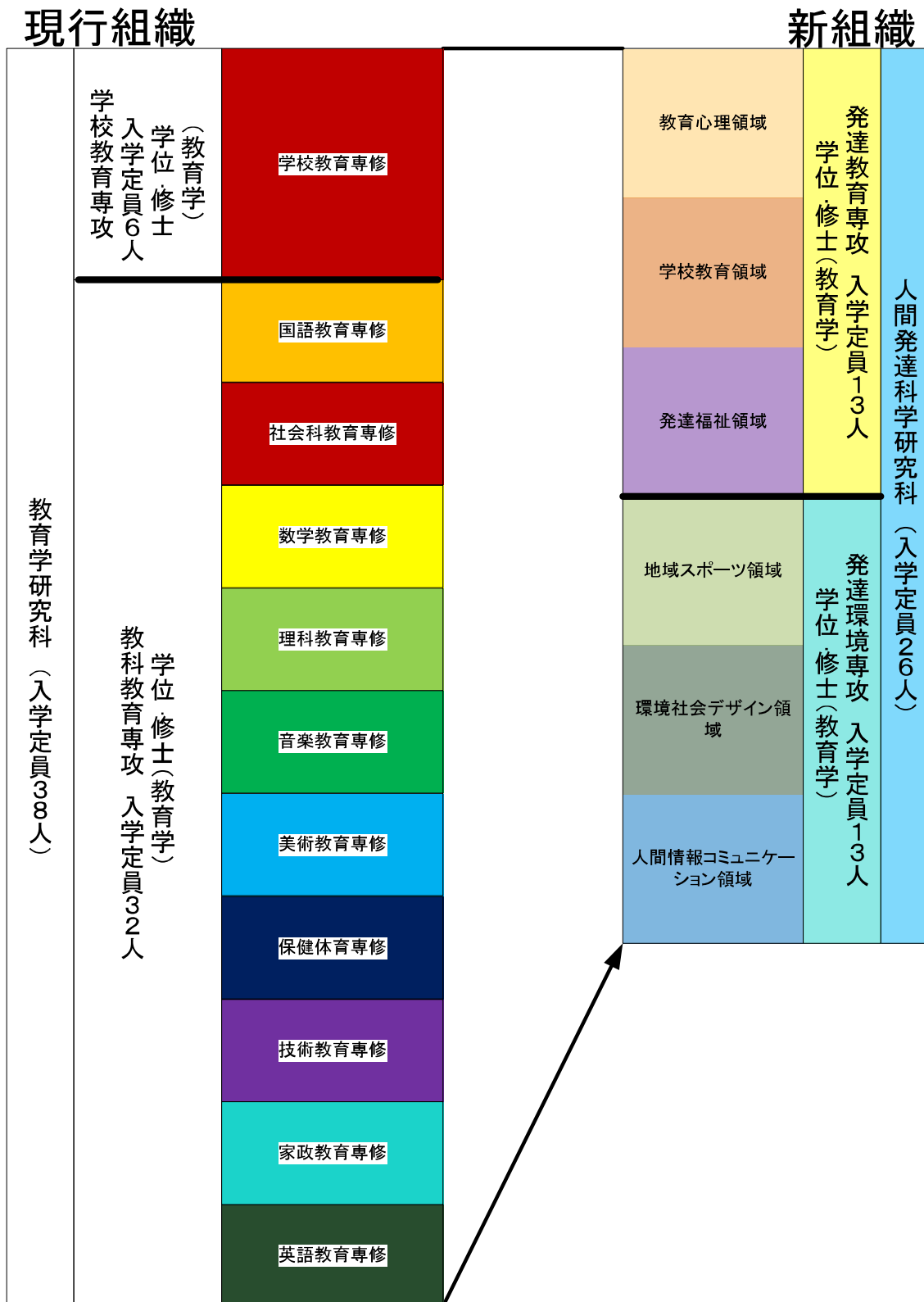
【別紙 1】

富山大学大学院人間発達科学研究科と人間発達科学部との連携イメージ



## 【別紙 2】

### 富山大学大学院人間発達科学研究科 新旧対照図



### 【別紙3】

#### 人間発達科学研究科発達教育専攻の履修モデル:代表例

領域	《教育心理1》	《教育心理2》	《学校教育1》
研究テーマ	発達障害児の認知発達とストレスマネジメント指導のあり方に関する調査研究	キャリア育成における適性処遇交互作用に関する調査研究	児童生徒の学習意欲を引き出す授業づくりに関する調査研究
修了後の進路	児童相談所における心理職・福祉職等の公務員、病院や教育NPO等において心理的、人間関係的な諸問題を抱える児童生徒をサポートする専門職	一般企業における人事労務担当部署の専門職	学校においてリーダーシップを発揮する教員
修得すべき能力	発達測定に関する知識技能、心理的介入の実践的能力、発達を支援する人材育成の知識と技能を修得し、児童及び児童をとりまく環境を適切に評価し、児童の発達を保障する学習プログラムを開発し、指導できる。	人間関係に関する心理学的知識、学習に関する知識を背景に、企業内のコミュニケーションの取り方や構成員のキャリア育成に関する理論を理解し、組織能力を向上できる。	学校や教職に求められる社会的ニーズ、学校組織や学級組織の特徴と今日的課題を適切に理解した上で、児童生徒の発達を的確に把握し、適切な教材を開発するとともに、学習を効果的に支援する実践的指導力を修得する。
「専門科目」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育心理学特論</li> <li>・教育データ解析法</li> <li>・発達心理学特論演習</li> <li>・発達臨床心理学特論</li> <li>・発達臨床心理学特論演習</li> <li>・発達障害療育支援論</li> <li>・障害児認知神経心理学特論</li> <li>・ソーシャルワーク特論</li> <li>・精神保健福祉特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会認知神経科学特論</li> <li>・実験社会心理学特論演習</li> <li>・教育データ解析法</li> <li>・発達臨床心理学特論</li> <li>・カウンセリング特論演習</li> <li>・学習心理学特論</li> <li>・教育方法学特論Ⅱ</li> <li>・ソーシャルワーク特論</li> <li>・コーチ学特論(発達環境専攻)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンセリング特論演習</li> <li>・学習心理学特論</li> <li>・教育哲学特論</li> <li>・教育史特論</li> <li>・教育行政学特論</li> <li>・教育社会学特論</li> <li>・教育方法学特論Ⅱ</li> <li>・教育方法学特論演習Ⅱ</li> <li>・社会科教育研究</li> <li>・社会科教育特論</li> </ul>
小計	18	18	20
「専攻間連携科目」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育心理学研究法特論</li> <li>・特別支援教育論</li> <li>・健康システム特論</li> <li>・カウンセリング特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育心理学研究法特論</li> <li>・発達心理学特論</li> <li>・生涯学習特論</li> <li>・異文化コミュニケーション特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育心理学研究法特論</li> <li>・発達心理学特論</li> <li>・学校教育学特論</li> </ul>
小計	8	8	6
「特別研究」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究Ⅰ</li> <li>・課題研究Ⅱ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究Ⅰ</li> <li>・課題研究Ⅱ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究Ⅰ</li> <li>・課題研究Ⅱ</li> </ul>
小計	4	4	4
合計	30	30	30

領域	《学校教育2》	《発達福祉1》	《発達福祉2》
研究テーマ	児童・生徒の学ぶ意欲を高める視聴覚教材の開発と指導に関する調査研究	保育現場における「気になる子ども」の発達支援のあり方に関する調査研究	特別支援学校における児童生徒の自立性の確立に関する調査研究
修了後の進路	教材開発会社、教育関連企業の開発職	療育機関(通園センターや発達障害者支援センター)の指導員、保育現場の巡回相談員	特別支援学校においてリーダーシップを発揮する教員
修得すべき能力	教育の情報化、人間の認知、学びに関する学識を背景に、視聴覚教材開発に関する理論及び方法論を理解し、効果的な教材開発と指導に取り組むことができる。	保育・幼児教育に求められる現代的な課題を理解した上で、幼児の発達とその障害に関するアセスメント能力、カウンセリング技術等を修得し、幼児に対する適切な発達支援を行うことができる。	特別支援教育の政策と動向、特別支援教育に寄せられる社会的ニーズの適切な理解、及び障害児に関する教育的、心理学的、生理学的、医学的な専門知識の修得を基盤として、障害児の自立に向けた専門的で適切な指導ができる。
「専門科目」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育心理学特論</li> <li>・教育方法学特論Ⅰ</li> <li>・教育工学特論</li> <li>・創造性開発特論</li> <li>・教育の情報化特論</li> <li>・メディア教育特論</li> <li>・理科教育研究</li> <li>・理科教育特論</li> <li>・情報メディア学特論(発達環境専攻)</li> <li>・コンテンツデザイン特論(発達環境専攻)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達臨床心理学特論</li> <li>・発達臨床心理学特論演習</li> <li>・カウンセリング特論演習</li> <li>・発達支援研究法特論</li> <li>・特別支援研究法演習</li> <li>・発達障害療育支援論</li> <li>・障害児認知神経心理学特論</li> <li>・幼児教育相談特論</li> <li>・臨床発達心理学特論</li> <li>・臨床発達心理学特論演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援研究法演習</li> <li>・発達障害療育支援論</li> <li>・障害児病理学特論</li> <li>・特別支援教育論演習</li> <li>・アクセシビリティ論</li> <li>・障害児指導法特論演習</li> <li>・重度重複障害学特論</li> <li>・障害児心理研究法特論</li> <li>・発達障害支援学特論</li> <li>・障害児医療学特論</li> </ul>
小計	20	20	20
「専攻間連携科目」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアコミュニケーション特論</li> <li>・発達心理学特論</li> <li>・学校教育学特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康システム特論</li> <li>・生涯学習特論</li> <li>・カウンセリング特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育学特論</li> <li>・特別支援教育論</li> <li>・障害児コミュニケーション行動支援特論</li> </ul>
小計	6	6	6
「特別研究」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究Ⅰ</li> <li>・課題研究Ⅱ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究Ⅰ</li> <li>・課題研究Ⅱ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究Ⅰ</li> <li>・課題研究Ⅱ</li> </ul>
小計	4	4	4
合計	30	30	30

## 【別紙4】

### 人間発達科学研究科発達環境専攻の履修モデル: 代表例

領域	《地域スポーツ》	《環境社会デザイン》	《人間情報 コミュニケーション1》	《人間情報 コミュニケーション2》
研究テーマ	健康教育プログラムの開発とそれを生かしたスポーツ等のイベントの企画・立案に関する調査研究	環境教育及び防災教育に関するカリキュラムの調査研究	表現教育における指導方法と教育成果を発表するイベント等の企画・立案についての調査研究	語学教育において、感性と知的関心を引きつける教材コンテンツのデザインについての調査研究
修了後の進路	健康教育プログラムの開発を通じ、健康増進及び体力向上を図る地方公共団体の専門職、総合型地域スポーツクラブ・一般企業の福利厚生部門等の企画・立案担当者	環境教育及び防災教育カリキュラムの開発を通じ、安全・安心な社会設計にあたる地方公共団体の専門職、環境NPO法人や教育関連企業の企画・立案担当者、社会教育主事	表現教育に関わる事業を実施するイベント企業・団体のプロデューサー、地方公共団体や一般企業のホール等文化施設の企画・立案担当者	語学教材コンテンツ開発に携わるメディアクリエイター
修得すべき能力	身体の仕組み、健康や体力と運動の関係についての理解を背景にして、生涯学習上有意義な、健康増進プログラムや体力向上プログラムを開発でき、それを生かしたスポーツ等のイベントを企画・立案できる。	自然、地理、都市、生活の環境保全についての理解を背景に、環境教育と被災後のアフターケアを含む防災教育カリキュラムを開発し、住民や企業などに効率的・効果的に提供することができる。	映像、美術、音楽、舞台芸術など多様な形式における表現教育を理解するとともに、企画力及びコミュニケーション力と現場運営能力を身につけて、生涯学習上有意義なイベント等を提供することができる。	学習内容と学習方法を理解すると同時に、語学教材コンテンツ開発に必要な言語等のコミュニケーション力とコンテンツを媒介するヒューマンフレンドリーな学習ツールに関する知識を身につけ、学習効果と創造性を併せもつ教材を制作できる。
「基幹科目」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯発達特論</li> <li>・教育方法と技術特論</li> <li>・教育方法と技術特論演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能社会形成特論</li> <li>・教育方法と技術特論演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯発達特論</li> <li>・問題解決学特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯発達特論</li> <li>・教育方法と技術特論</li> <li>・教育方法と技術特論演習</li> </ul>
小計	6	4	4	6
「専門科目」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツマネジメント特論</li> <li>・スポーツ文化史特論</li> <li>・パフォーマンスアーツ特論</li> <li>・生命科学特論</li> <li>・食環境特論</li> <li>・スポーツバイオメカニクス特論</li> <li>・運動指導法特論演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境法特論</li> <li>・地球環境教育特論演習</li> <li>・自然現象のシミュレーション特論演習</li> <li>・地理空間特論演習</li> <li>・西欧都市環境史特論</li> <li>・減災教育特論</li> <li>・住環境特論</li> <li>・睡眠環境特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報マネジメント特論</li> <li>・情報メディア学特論</li> <li>・人間情報コミュニケーション特論演習</li> <li>・コンテンツデザイン特論</li> <li>・視覚文化特論</li> <li>・ミュージックインタープリテーション特論</li> <li>・パフォーマンスアーツ特論</li> <li>・衣環境特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテンツデザイン特論</li> <li>・ヒューマンインタフェース特論</li> <li>・言語習得特論</li> <li>・日本語表現文化特論</li> <li>・言語文化構造特論</li> <li>・異文化コミュニケーション特論演習</li> <li>・モデル化とシミュレーション特論</li> </ul>
小計	14	16	16	14
「専攻間連携科目」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ医学特論</li> <li>・カウンセリング特論</li> <li>・教育実践学特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学コミュニケーション特論</li> <li>・生涯学習特論</li> <li>・カウンセリング特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアコミュニケーション特論</li> <li>・教育研究計画法</li> <li>・障害児コミュニケーション行動支援特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育研究計画法</li> <li>・発達心理学特論</li> <li>・異文化コミュニケーション特論</li> </ul>
小計	6	6	6	6
「特別研究」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究 I</li> <li>・課題研究 II</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究 I</li> <li>・課題研究 II</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究 I</li> <li>・課題研究 II</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究 I</li> <li>・課題研究 II</li> </ul>
小計	4	4	4	4
合計	30	30	30	30